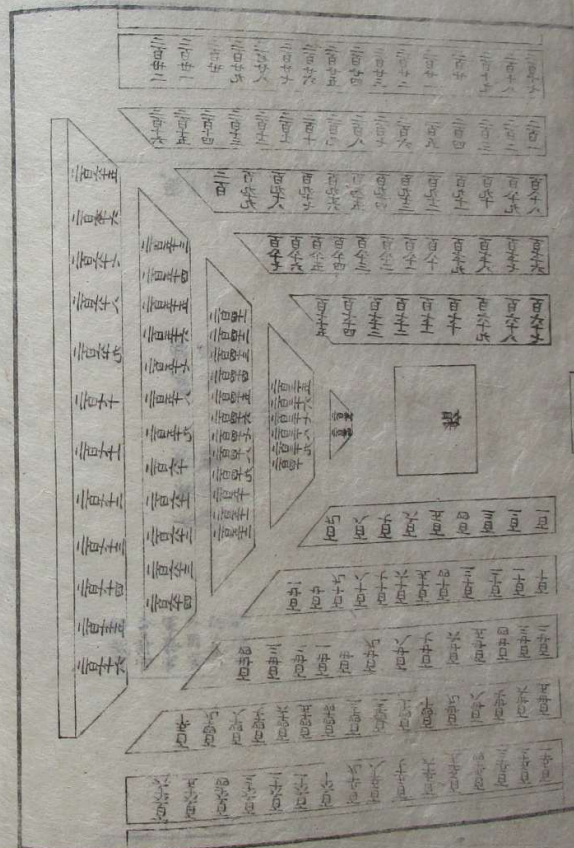


明治二年己巳三月

公議所日誌 第一

公議所日誌第一

明治二年己巳三月七日公議所開議
 親町三條前大納言軍務官准副知事久我大納言
 辦事大原少將議長秋月右京亮初、神祇官權
 判事古川三郎會計官判事長谷川三郎兵衛刑法
 官判事佐々木三四郎議事取調御用掛、面々直
 垂狩衣着用諸藩公議人二百廿七人禮服着用



テ同日第十二字公議所ニ出仕公議人一同闡取
ニテ席順ノ番号ヲ定メ着坐ス須臾ニシテ議長
秋月右京亮 詔書ヲ讀上ル一同平伏拜聽ス

詔書之寫

朕將ニ東臨公卿羣牧ヲ會合シ博ク衆議ヲ諮詢
シ國家治安ノ大基ヲ建シトス抑制度律令ハ政
治ノ本億兆ノ賴トコロ以テ輕シク定ム可ラズ
今ヤ公議所法則略既ニ定ルト奏ス宜シク速ニ

開局シ局中禮法ヲ貴ヒ協和ヲ旨トシ心ヲ公平
ニ存シ議ヲ精確ニ期シ專ラ
皇祖ノ遺典ニ基キ人情時勢ノ宜ニ適シ先後緩
急ノ分ヲ審ニシ順次ニ細議シ以テ聞セヨ朕親
シク之ヲ裁決セン

明治二年己巳三月

讀上畢テ御下問五ヶ條ノ議案各議員ニ配分シ
異存アレハ次會ニ之ヲ差出スベキヲ達ス右畢

テ第四字一同退散ス
御下問議案第二号ニ出ス

公議人分課

課目

勸農	租稅	驛遞
貨幣	外國交際	外國交易
礦山	度量	國內商業
開墾	學校 出板	刑法

軍律 海軍 宗門
陸軍 營繕水利

公議人達書

一公議人一同何科ニ限ラス議案ヲ作ルベキ事
勿論ニ候得共其科ニ當リ候者ハ別テ盡力ス
ベキ事

一公議人ハ本務ハ會議ニテ諸議案ノ可否ヲ論
定スルニ有之候事

一 公議人中分課ヲ立各其所長ニ從テ一科若クハ二科ノ取調ヲ掌リ取調出来ノ上ハ之ヲ議案トシテ議長ニ可差出候事

一 他向ヨリノ建白并箱訴ノ類ハ議負幹事ニテ其趣意ヲ取調夫々分課ノ局ニ相廻シ可申事

一 分課ノ局々ニテ右諸建白ヲ猶久取調可議事ト否トヲ分別シ其議ス可キ者ハ幹裁ヲ整ユ議案ト可爲事

一 諸建白箱訴ノ類可議庶ニ候處趣意明瞭ナラ

サル歟或ハ法度ニ相觸候様ノ事有之節分科ノ人負ヨリ其當人ヲ呼出シ篤ト承リ糾シ説諭ノ上刪正ヲ加ヘ議案ノ式ニ可令ス事

一 議案已ニ出来ノ上ハ議長ニ差出シ公議ニ附ス可シ其節ニハ分科ノ者ト雖モ他負ト同様公議ヲ遂ク可キ事

一 議案

天裁ヲ經テ法令トナリタル後果シテ行ハルルヤ否ヤ行ハレシ上ハ其利害如何等ヲ分科

ノ向ニテ重立熟察シ之ヲ衆員ニ告示ス可キ
事

公議所法則案補

- 一 先會之議案異論無之者ハ讀上ケム及ハス且
前ニ讀上ケタル者ト同意ナレハ其趣相斷リ
讀上ケニ及バズ
- 一 讀上ケ中二字我一毎ニ三十分時ツ、休息ス
ベシ

一 第五字ニ至リ終ラザレハ翌々日例刻ニ再會
シテ續讀スベシ

一 讀上ケ濟タル後其書面ヲ議案臺上ニ差置ベ
シ

一 以來第十一字出席正午ヨリ議事ヲ始ムベシ

一 正午ニ至リ百人ニ充タサレハ其日議事ヲ休
ムベシ

一 後會ニ可否ヲ決セハ名前印形ヲ加フベシ

一 議案中數ヶ條アリテ毎條可否一ナラサレハ

逐條可否ヲ記スベシ
一代人ノ向ハ讀上ケ可否共ニ無用タルベシ
但議員中賴合ハ此例ニアラス
一代人ノ向ハ以來出席勝手次第タルベシ
三月
議長

公議所目安箱立札之寫

定

廣ク公議ヲ採リ御國法ヲ被爲立候御趣意ニ

候間存寄有之者ハ書面ニ致シ此内へ可入モノ
也

巳三月

公議所

官版御用

御彫刻所

神田旅籠町丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七

明治二年己巳三月

公議所日誌

第二上

公議所日誌第二上

三月十二日會議定日ニ付第十字辨事大原少將
議長秋月石京亮神祇官權判事古川三郎議事取
調御用掛議員二百七人出仕例席ニ着坐第十二
字ヨリ各議員席順ニ隨テ議案臺前ニテ去ル七
日御下問ノ評論ヲ讀上ケ畢テ互ニ其說ノ是非
得失ヲ討論ニ後ニ今日配分ノ議案ヲ請取第四
字半一同退散セリ

御下問

自諸侯至上士所置規則案

第一

諸侯其持高ノ地ヲ分割シ末家公然宗家ノ祿高ヲ減シ末家ハ分割シ別段判ト稱シ歷然諸侯或元旗下等一家格ヲ受ル者如シ没籍ノ罪アルトキハ其秩祿朝廷へ召揚ノ事

第二

右等ノ者御一新後徳川家へ隸スル向モ亦其知

行所 朝廷へ召揚之事

第三

諸藩ノ藏米等差遣ニ諸侯元旗下等建置候向ハ分割祿高ノ名アリト雖モ實ハ宗家石高ノ中故國役重複相勤ル者如シ没籍ノ罪アリト雖モ其秩祿ハ國ヨリ宗家石高ノ中故其分ニ差置只可為減籍事

第四

但右等ノ向ト雖モ一家格ヲ立ル上ハ國役ヲ務スルハアラズ因テ其祿高多寡ニ應ニ御定額

之通軍資金軍役等爲差出候事

第五

尤モ其本末都合ニテ事ナクトモ減籍致シ度向
ハ願、上差許ニ相成候事

右御下問之御規則案可否如何決議之趣可申
上候事

己巳三月七日

議長

御下問評論鈔出 但異存無キ分ハ省テ載セ

第一條評論

坂田 葵

宗家ノ高ハ減ズレ別ニ判物ヲ受ケザル者ハ
如シ没籍ノ時秩祿宗家ニ歸シ宗家ノ祿高ヲ増
スベシ

海野 三雄

没籍ノ時一旦御法ニヨリ秩祿御召揚ニ相成然
ル後ニ御仁慈ヲ以テ其秩祿本家ヘ還サルベシ
中川 潜叟

宗家没籍ノ時末家ノ秩祿従前ノ如キヲ勿論ナ
ルベキカ

林 慎助

大略同論

友松勘之丞

没籍ノ典度ヲ制シ其適宜ヲ得ル時ハ秩祿ヲ奪
フベシ

立花次郎左衛門

御法則至當ニ候得共當人而已其罪ニ處シ秩祿

ヲ宗家ヘ御委任ニ相成候得バ御寛典ト存候

田丸謙藏

諸侯元旗本ノ論ナク功罪ノ與奪宗家ニ關係セ
サルベシ

第二條評論

田丸謙藏

徳川家ヘ隸セバ同家ノ俸祿ケルベシ馬ゾ地ヲ
携テ行クノ理アラシヤ

福井謙藏

德川家ニ隸シ候得バ罪没籍ニ當リ可申乎或ハ
第三條減籍ノ格ニ準シ禄ヲ宗家ニ歸ス可キ歟

原株之助

德川家ニ隸スル者所領ヲ本家ニ御戻シ可然候

恩田啓吾

其罪大罪ニ非ザレバ禄高宗家ニ賜リ下ヲ厚待

ズベシ

稻津濟

一家格ヲ立ル者ハ宗家ニ隸スルヲ除クハ外其

餘部テ 朝廷ヘ召揚ゲラルベシ

水野三郎

德川領知ノ内ヨリ分割ハ格別儀ト存候

鈴木太郎

宗家功勞ニテ賜ル所ノ土地ヲ分割セシナルバ
其身大罪有ルニ非レバ宗家ヘ還サルベシ

第三條評論

福井謙藏

支分ノ禄ヲ宗家ニ合一スルカ或ハ別ニ判物ヲ

賜リ第一條ノ格ニ同フスベシ且本文減籍ノ字
除籍ニ改ムベシ

小田村市衛門

繼令支藩タリトモ罪アラバ秩祿ヲ没入スベシ
若シ又宗家没籍ノ罪アラバ其封祿大ケヲ没入
シ支藩ノ分祿ハ其分ニ差置ベシ且藏米取リハ
以來夫レ大ケノ土地ヲ分割シ御印證ヲ賜ハラ
バ國役重複ノ弊ナカルベシ

善野司

大略同但國役重複ノ論ナシ

有竹衛門

藏米ヲ以テ分家ヲ建置國役重複相勤ムルハ不
宜以來判然減除シ國役重複ノ弊無キ方可然候
藏米等差遣シ候令國役ヲ重複勤ムル理ナシ宗
家石高ヲ減セ國役ヲ勤ムルハ没籍ノ罪有リ
トス減籍シテ秩祿宗家ニ歸スベシ又宗家ノ石
高ヲ減シ一家格ヲ立國役ヲ勤ムルナラバ第一

條ト同軌タルベシ

鶴田右衛門

土地ヲ領セズ只藏米取り而已ニテハ藩屏ト稱
スルノ謂レナシ故ニ宗家ノ石高ヲ減ジ末家ハ
土地ヲ分割シ別ニ判物ヲ賜フ方名實相稱フベ
シ且宗家如シ没籍ノ罪アラバ無辜ノ末家モ減
籍被 仰付候テハ條理ニ背クベシ殊ニ國役ヲ
重複勤ムルノ理ナシ

中澤見作

大略同論

大略同論但宗家没籍云々ノ論無し

岡本治兵衛

末家没籍ノ罪アル時ハ其秩祿 新官左太夫

ベシ然ラザレバ類ヲ推シ宗家没籍ノ時無罪ノ
末家ヲ減スルニ至ラシ以後右等ハ別ニ
朝廷ヨリ判物ヲ賜リ宗家ノ祿高ヲ減ズベシ

永野壽郎兵衛

大略同論

若林勘兵衛

末家其宗家ヨリ廩米ヲ受ル者ハ其家ノ大臣ト
云ベシ 朝廷之ニ候爵ヲ與フルノ理ナカルベ
シ是レ蓋シ一時ノ處置而已以後 朝廷ヨリ新
ニ璽書ヲ與ヘ末藩諸侯トスベシ

加集寛介

宗家教諭不行届ノ輕重ニヨリ減籍スルモ可然
候且藏米等遣シ候分ハ自今必御判物ヲ受ケシ

ムベシ 若シ御判物ヲ受クルヲ好マザル者ハ一
家格ヲ建ルヲ免サバルヘシ

田丸謙藏

其職位ハ 朝廷ニ係レドモ其祿ハ宗家ニ係レ
リ如シ罪アラバ其職位ヲ廢シ其名ヲ削リ祿ヲ
論ゼザルベシ

久松修理

分割祿高ノ名有ツテ其宗家石高ノ内故名實齟
齬仕遂ニ重複ノ國役相勤候故ニ分家ハ其祿高

ヲ以テ別ニ御判物ヲ受ケ候トモ又本末家ヲ合
シ候トモ兩條ノ内ニ定メ度候

西山亮三郎

第一條ノ如キ制度ニナシ本支各商量シテ其地
ヲ分割シ別ニ一家格ヲ立ツレバ第四條ノ如ク
軍資等重複相勤ムルノ弊ナカラシ

平井東馬

若シ宗家ニテ處置スル能ハズシテ朝廷ヨリ
御處置有之時ハ其秩祿朝廷へ召揚ノ事

中野 齋

本家ヨリ末家へ遣シタル藏米ヲ朝廷へ收メ
朝廷ヨリ其數ニアタル土地并御判物ヲ賜フベ
シ然ラザレバ本家没籍ノ罪アル片ハ末家モ共
ニ絶ルナリ豈如此ノ理アラシヤ

麻見達左衛門

國役重複ノ理ナシ是迄内分遣シ來候分地ヲ分
割シテ宗家ノ持高ヲ減ズベシ但宗家減高迷惑
ノ者ハ第五條ノ通り減籍ヲ許シ或ハ開墾等ニ

テ持高多分ニ成リ候時ハ增高被 仰付ベシ併
以来内分ノ末家不相成ノ御規則ヲ立ツベシ

早川與二郎

國役重複ハ不可ナラレ是等ハ宗家ヘ合シ宗家
軍役ヲ勤候テハ如何若シ強テ一家格ヲ立ント
欲セバ宗家ノ禄高ヲ減シ一家格ヲ立ベシ

坂田 莠

分割ノ名ノミニテ其實宗家石高ノ中ナル末家
ハ無禄ノ諸侯旗下ナリ且國役ヲ重複勤メシム

ルハ聚歛ノ類ナリ石等ハ宗家禄高ヲ減ジ末家
ニ分割シ其現禄ノ實數ニテ國役ヲ勤メ没籍ノ
時ハ秩禄ヲ宗家ヘ歸シ宗家ノ禄高ヲ増スベシ
若シ宗家禄高ヲ減ズルヲ好マザレバ其末家ノ
籍ヲ刪ラシ

但一種宗家ノ新田ヲ受ケ家格ヲ立ル者アリ
其田地ヲ新ニ皇國ノ版圖ニ入レ判物ヲ宗
家禄高ノ外ニ所持シ其實ハ末家ニ與ル者ハ
第一條ニ論ゼシ者ニ準ジ本末各國役ヲ勤メ

没籍ノ時ハ新田高宗家ニ歸スベシ若右ノ判
物ヲ直ニ末家ニ所持セシムル者ハ没籍ノ時
新田高 朝廷ヘ召揚グベシ

輕部鷗彌

本文ノ如キハ俸祿ノ名ニ背ケリ自今改テ真ノ
令割ヲナシ没籍ノ罪アル時ハ第一條ノ如クス
ベシ

中川潛叟

宗家没籍ノ時ハ末家従前ノ秩祿 朝廷ヨリ賜
ルベシ

但宗家ノ罪ニ關係スル時ハ臨機ノ御處置論
外ナルベシ

小林助右衛門

藏米遣シ候末家ハ宗家石高ノ中ナレバ第一條
ノ末家連モ素ト宗家石高ノ中ナレバ矢張此條
モ 朝廷ヘ召揚クベシ

鈴木太郎

大略同論

稻津 濟

藏米ヲ遣メレ者ハ夫レニ應ヌル程ノ土地ヲ分
與シ夫レ犬ハ宗家ノ持高ヲ減シ別ニ朝廷ノ
判物ヲ受ケシムベシ尤内分ト稱スル者モ同様
タルベシ又土地ヲ分與シ判物ヲ受ルヲ願ハザ
ル者ハ諸侯上士ノ籍ヲ除キ宗家ニ隸スベシ

錦織四郎太夫

減籍ノ字不穩如シ沒籍ノ時ハ除籍シテ家名斷
絶スベシ

近藤百助

藏米遣シ置候者ハ其藏米犬ノ土地ヲ與ヘ宗家
ノ高ヲ減ジ總テ新ニ御判物ヲ賜リ沒籍ノ罪ア
ル時ハ秩祿ヲ朝廷ヘ召揚ダベシ

九鬼求馬

藏米等遣シ置候者ハ畢竟爵位アル家来モ同然
ナリ且沒籍ノ罪アル時只減籍ノミニテハ下ニ
蔵有テ上ニ權無シ殊ニ國役重複ハ上ニ在テ相
當ラザルノ理下ニ在テ謂レ無キ冗費ナリ故ニ
地ヲ分割ニ新ニ御判物ヲ願フトモ又陪臣ニ付

候トモ都テ宗藩へ御仕セ可然候

水野立三郎

藏米遣シ候者没籍ノ罪ニ至ラバ宗家ノ石高中
ト雖モ減祿可然候尤宗家別段勲功アラバ其末
家ヲ没シテ宗家ノ秩祿ヲ差置候モ可ナリ

鈴木太郎

藏米ヲ遣シ候者モ没籍ノ罪有ル時ハ秩祿ヲ
朝廷へ召揚グベシ

森脩

末家罪アレバ宗家モ譴責ヲ免レズ然ルニ唯減
籍而已ニテハ陽ニ其責ヲ得陰ニ其利ヲ得ル也
故ニ没籍ノ上ハ宗家子弟ノ内ヲ以テ更ニ一家
ヲ立ベシ

藏米遣シ候事ヲ止メ分知被 仰付藩屏ノ列ニ
加フベシ

鈴木才藏

大略同論

岡田孝

園田保

王爵ヲ帶ヒ秩祿アル者ハ土地藏米ノ別ナク朱
璽ヲ賜ハリ朝廷ノ恩祿トナシ罪有時ハ宗家
支封相連坐セズシテ可削ハ削リ可没ハ没シテ
一切朝廷ニ歸スベシ

林慎助

没籍ノ罪ノ時只減籍而已ニテハ徳川家へ隸ス
ルノ格へ響キ穩ナラズ宗家石高ノ中ヨリ召揚
ケ追テ其品ニヨリ家跡ヲ立サセラルハ格別

事ニ候且軍資國役ハ重複ナラザル様仕度候

第四條五條評論ハ下ノ卷ニ記ス

官版御用

御彫刻所

神田旅籠町二丁目

竹口瀧三郎

御書物所

本町四丁目

上州屋惣七

明治二年己巳五月

公議所日誌 第十二

公議所日誌第十二

御國體之儀ニ付問題四條

制度寮撰修 森金之丞

第一

方今我國體封建郡縣相半スル者ニ似タリ如此
ニシテ將來ノ國是果シテ如何

第二

若シ之ヲ改メ一ニ歸セントセバ其制封建ニ歸

公議所日誌十二

スベキカ將タ郡縣ニ歸スベキカ其理否得失果
シテ如何

第三

若シ都テ之ヲ封建ニセバ之ヲ如何措置シテ人
情時勢ニ適當スベキヤ

第四

若シ都テ之ヲ郡縣ニセバ之ヲ如何措置シテ人
情時勢ニ適當スベキヤ

右問題ニ付五月四日衆議員及復詳論ノ上連

名ニテ下文ノ議案ヲ差出セリ

御國制改正ノ議

第一

皇國一圓私有ノ地ヲ公收シ政令一ニ出ルヲ要
ス

第二

大國ハ一府ヲ設ケ小國ハ近傍ノ國府ニテ管轄
スベシ每府知府事一人ヲ置クベキ事

第三

大凡十萬石ノ土地毎ニ一縣ヲ設ケ知縣事一人
ヲ置キ其國府ニ屬スベキ事

第四

親王ヲ皇族トシ公卿諸侯ヲ貴族トシ輦下ニ居
住セシムル事

但シ萬石以上ノ藩臣モ貴族ト稱スベキ事

第五

中大夫以下諸藩士迄ヲ上士下士ト二等ニ定ム
ベキ事

第六

府縣ノ知事ハ當分ヲ限り舊藩主并執政參政中
ヨリ任ゼシムベキ事

第七

府縣判事ハ銓選ニテ任ゼシムベキ事

第八

親王以下臣士ヲ私畜スルヲ禁レ從僕其分ニ應
ジ人負ヲ定メ附屬スベキ事

第九

是迄士列ニアリト雖氏士ノ任ニ堪ガル者ハ其
令ニ應ジ産業ノ手當ヲ賜リ農工商ニ歸スルヲ
許スベキ事

第十

主上御歳資御定メノ事

第十一

皇族ノ俸禄ハ平均ニ定ムベキ事

第十二

貴族上士下士ノ俸禄ハ各五等ツ、ニ定ムベキ

事

第十三

皇族以下ノ俸禄總テ廩米ヲ以テ下シ賜候事

第十四

職俸ハ別ニ金ヲ以テ定ムベキ事

第十五

寺社地ヲ廢シ金米ヲ以テ相當ニ下シ賜候事

第十六

兩京ノ衛兵府縣ノ常備兵ハ上士下士ヲシテ之

西大路 一宮 大垣新田 松岡 犬山 三上
郡上 勢州龜山 昌平學校 舉母 播州赤穂
下妻 結城 山上

郡縣議

- 一大藩ヲ府中小藩ヲ縣ト改ムル事
- 一藩主即チ知事ニ任ズル事
- 一藩臣ハ朝臣トシ判事以下ノ諸官ニ任ズル事
- 但シ知事ノ私用ニモ假借シテ召仕ノ事
- 一舊領地ハ從來ノ儘之ヲ預ケ知事初士庶ノ給

俸及ヒ兵賦諸費ニ供スル事

- 一右ノ知事ハ大故ナケレバ世襲ノ事
- 一中下大夫上士ノ采邑ハ之ヲ廩米ニ換ヘ東西
- 京ニ住居セシムル事
- 一社寺領其他土地人民ヲ有スルモノ皆廩米ニ換ベキ事
- 但シ藩主ヲ改メテ知事ニ任ジ領知ヲ支配ニ改ムル事
- 右 三田

右同議者

駿州 越前 雲州 彦根 明石 高田 福山
佐倉 淀 苗木 足守 烏山 綾部 小見川
小倉新田 大洲 母里 笹山 糸魚川 田ノ口
大野 芝村 成羽 伯太 田原 黒川 延岡
上田 安中 高遠 鯖江 林田 長南 豊岡
岡山新田 津和野 西端 庭瀬 神戸 浅尾
飯野 房州勝山 廣瀬 鳥羽 新見 小田原
萩野山中 峰山 高須 丸亀 新宮 宇和嶋

水口 天嶋 新谷 佐野 福江 安志 嶋原
豫州吉田 丹州龜山

封建議

方今我國體所謂郡縣ノ如キ者相參ト雖モ大抵
其制封建ニ近シ今一旦強テ之ヲ改メ一ニ歸セ
シトセバ只人情ニ悖リ騷擾ヲ醸スノミナラズ
廉耻ノ美俗ヲ毀リ躁進ノ惡弊ヲ生シ國脈ヲシ
テ衰弱セシムルニ至ラシ人情時勢ニ適セズン

聖上 詔勅ノ旨ニ悖ラシカ 朝廷ニ於テ大體
確立シ大權不移制度刑政必一ニ出シノバ旧貫
ニ仍ルト雖モ亦大害アルヲナシ今試ニ施行ノ
策ヲ陳スル左ノ如シ
一 大小諸藩速ニ璽書ヲ賜ルベキ事
但シ漸ヲ以テ土地ノ有餘不足ヲ檢シ名實
適セシムルヲ要ス
一 制度ハ一ニ朝廷ニ體認シ一途ニ歸スベキ
事

但シ歲終ニ一歲ノ賞典刑政ヲ書シ 官ヘ
出シ死刑以上ハ 朝裁ヲ仰クベキ事
一 朝覲會同ハ土地ノ遠近ニテ制度ヲ立行役時
ヲ踰シメザル事
但シ國役軍役軍資金等決シテ怠慢ス可ラ
ザル事
一 近隣ノ府縣ト親睦シ緩急相救フベキ事
一 各藩其經界ヲ正シ相侵スナク禮讓ヲ以テ相
親ムベキ事

一 公卿徵士ノ類ハ関内侯トナシ土地ヲ與ヘズ
歳俸ヲ賜ルベキ事

但シ従前ノ領地ハ据置事

一 臨時ニ巡察使ヲ遣シ政刑ノ整否ヲ檢査スベ
キ事

一 府藩縣ニ土地ノ星散スル者ハ漸ヲ以テ合一
セシムベキ事

附錄

一 東西兩京ヲ置キ畿内ノ制ヲ建ル事

西京ハ五畿東京ハ關八州ト定メ畿内ニ住ス
ル諸侯ハ所在ノ散布スル官領ニ移封シ移封
ノ費用三分ノ二ハ官ヨリ給シ年賦ニテ之ヲ
上納セシム而文武ノ士ヲ諸藩ヨリ高ニ應ジ
テ貢出セシメ朝臣トナシ畿内ニ住セシメ親
衛兵トナス中下大夫上士モ同ク畿内ニ住セ
シム事
一 諸侯ノ封土ハ三十万石ニ限リ其餘地ハ子弟
ニ分封スベキ事

但シ子弟ナキ者ハ其地ヲ官ニ預リ子弟アルヲ待テ之ヲ封スルヲ許ス尤官ニ預リ中ハ其租税ハ官ニ納メ其政令ハ藩ニ委ヌ新田迄高等ノ規則モ同斷

一子弟ノ分封ハ十万石ニ限ル事

右二條ノ如クシテ國家ニ大勲勞アル者ハ封土三十万石ニ充ル者凡百ノ器械金銀米等ニテ賞スベシ三十万石ニ充タザル者ハ三十万石ニ充ル迄ハ土地ヲ與ルモ妨ナシ

右 一奥羽ノ土地ヲ以テ有功ノ臣ヲ封スル事

一諸藩ヲ合シテ軍艦ヲ備ヘシムル事

右 一諸侯ノ封土ヲ檢シ名實相適セザル者ヲ減シ其削地人民ヲ以テ四方ニ節度府ヲ設ケ兵馬ヲ具ヘ藩縣ヲ牽制シ公卿ヲ以テ之ニ任ズル事

右 龍野

公議所日誌十一

一畿内ヲ立ザレバ王室ノ諸用ニ乏シカルベシ
故ニ諸藩ノ高ニ應ジ土地ヲ献ゼシメ海陸軍
等ノ備ヲ設事

石

館山

一陸軍ハ各藩万石ニ五十人ノ定額ヲ立テ官兵
ト名ケ各藩ニ豫備ニ號令紀律ニ朝廷ノ
制度ヲ受ケ軍資ハ各藩ヨリ官ハ貢出シ官ヨ
リ之ヲ給シ兩京及ビ諸要地ノ戍兵等ニ備ル
事

右

柳河

一藩主二十名ヅハ石高ニ應ジ兵貢ヲ率ヒテ年
々兩京ハ更番スル事

右

福本

一万石以上ノ陪臣ヲ藩屏ニ任ズル事

一千石以上ノ陪臣ヲ中下大夫ト稱シ旧幕臣下
例ノ如クスル事

但シ是迄藩主與フル所ノ土地ヲ以テ朝臣
タル事勿論ナリ藏米ノ者ハ土地ニ換ヘ藩臣

ハ九百石以下タルベシ旬服定テ悉ク土着
タルヘキ事

右

岸和田

右同議ノ者

宮津 鶴牧 鶴田 三州吉田 大田原 松山
鉄肥 薦野 岡 尼崎 岸和田 柳河 宇土
七日市 八戸 富山 田安 作州勝山 肥後
館山 小野 岩村 堀江 丸岡 三春 多古
柳本 麻生 高槻 伊勢崎 久留里 喜連川

岩槻

山家 櫻井

高寄

村岡

福本

西條

小諸

古河 三草

足利

小濱

龍野

御國體封建議

第一

一我

神州ハ名義ヲ以テ立タル國ナレバ

皇紗連綿假令舜禹ノ如キ聖人出ルモ禪讓ノ事
アルヲ得ズ此名義ヲ以テ推ス時ハ諸侯ノ國ト
雖モ其理ハ一ニシテ累世君臣ノ義俄ニ廢ス可
ラズ是今日ノ勢風土人情ニ相適シ變ス可ラザ

ル事

第二

一方今封建郡縣相半スルニ似タリト雖モ只今
天下ハ純乎タル封建ナリ其郡縣ニ似タル者
ハ即チ

天子ノ公邑古所謂王畿千里ノ地四方ニ分在ス
ルナリ今日ノ勢其地四方ニ分在スル妨ナシト
雖モ太平無事ノ日ヲ待テ之ヲ古制ニ復シ五畿
及ビ江丹播紀等ノ地ノ高ヲ量リ王畿ト定メ其

地ニ所在ノ諸侯ヲ曰封ニ應ジテ僻遠ノ公邑ヲ
分チ賜フベシ或ハ五畿ニ伊賀近江丹波若狹ヲ
加ヘ九畿トナスモ可ナランカ

第三

一封建ハ君臣世契上下相親ミ事アレバ死力ヲ
盡シ其社稷ヲ守リ以テ皇室ノ藩屏トナル郡
縣ノ民ノ其令吏ヲ視ル逆旅主人ノ如キ者ト不
同事

第四

一我國四周大海外賊ノ來ル方所ナシ宜ク列侯
ヲメ其藩屏ヲ嚴ニシ其侵入ヲ防ガシムベシ今
其藩屏ヲ撤シ郡縣トナサバ其土ニ常君ナク其
民常主ナク屯兵戍卒アリト雖モ禦侮ノ任ニ堪
ザル事

第五

一方今諸侯封土奉還ノ願アリト雖モ提封旧ノ
如ク更ニ御判物ヲ賜リ之レト始ヲ正フシ旧弊
ヲ除キ庶政一新 詔旨ヲ體認シ 皇室ヲ翼戴

セシ毎縣巡察使ヲ遣テ藩治ノ得失ヲ察シ廢
讓ヲ行スル時傳

第六

一頻年兵禍連結レテ天下疲弊外夷覬覦人心洶
々此時ニ當テ國體ヲ變革スル決シテ宜シカラ
ザル事

第七

一公卿ハ位有テ土地人民無レ故ニ入相出將ノ
權輕シ天料僻遠ニ散處スルヲ以テ有功公卿ノ

中村 水戸 紀州田邊 麻田 赤生 三田市
 太田備中守 西尾隱岐守 筑後 須坂 杵築
 蓮池 生實 小城 完戸 沼田 吹上 岡崎
 多度津 日出 黒石

國體論節略

方今天下ノ大勢ヲ論ズレバ天下ヲ三分ニレテ
 封建其二分ニ居リ天料其一分ナルベシ即チ天
 子畿内方千里ノ譯ナレバ周家ノ制ナドニ比ス
 レバ帝ニ十倍ナルノミナラズ又要地ニ
 要地ハ大坂兵庫奈良
 庫奈良塚新

馮箱館
 ナドノ類

諸侯ヲ置カザルハ即チ名山大澤ハ不以封
 ノ理ニシテ制度上ニ於テハ毫モ遺策アルコナ
 シ天下ノ治不治政事ノ舉息ハ其人存スルト亡
 スルトニ在ルコトニテ豈制度上ニ在ルヤ所謂有
 治人無治法ナリ方今如何ナル時勢ゾヤ東陸兵
 革未息外夷覬覦且夕將開禍釁人心洶々臨深履
 薄ノ思ヲナセリ此儘ニシテ安集撫綏スルモ尚
 恐ラタハ動乱騷擾センコトヲ況ンヤ大制度ヲ大
 變革シテ以テ之レヲ攬キミダルニ於テラヤ此

レ微臣 等曰貫ニ仍ルヲ以テ是トスル所以ナリ
尤旧幕ノ流弊ト諸侯朝覲去留ノ制度ハ大變革
セザルコトヲ得ズ其規則ノ如キハ不贅於此矣

方今 朝廷多事 微臣 等銘々上リシ管窺ハ
冗長ニシテ恐ラクハ披閱ニ違ハナカラン
コトヲ故ニ大意ヲ節略シテ以テ呈ス伏仰裁
正

石同議ノ者

今治 宇都宮 丹南 中津 土浦 久居 津

鴨方 福知山 出石 臼杵 久留里 新發田

平戸 秋月 秋田新田 尾州 川越 大田喜

持木 大村 長嶋 長尾 岡田 榊良 新庄

忍 高瀬 高島 長瀨 本庄 宇土 三日月

森 飯田 阿州

御國體議

方今ノ國體曰ヲ承テ封建郡縣相半ス爰ニ於テ
乎諸侯又争テ其版籍ヲ返上スルニ至ル之レ封
建變シテ郡縣トナルベキ勢アルニ似タリ然リ

公議所日誌十二

二十七

ト雖モ其實郡縣ハ行レ難カラシ凡ソ封建ノ諸
侯二百七十餘家皆土地人民ノ富アリ今ヤ之ヲ
公ニ收メ又其藩士ヲ朝臣トナスモ數百年君臣
ノ恩義固結シテ頗ル人心沸騰ノ患アリ故ニ今
其版籍ヲ改メテ新タニ之ヲ本土ニ封ズベシ公
卿モ亦百五十家ニ下ラズ徒ラニ位階ノ貴キノ
ミニテ食邑ノ制モ未曾テ定ラズ自然公武ノ別
アリテハ人心モ一和セズ故ニ親王公卿モ亦封
土ヲ賜リ諸侯ト竝ビ立テ武備ヲ修メ王事ヲ勤

メシムルニ如カズ随テ從前ノ弊ヲ革メ凡百ノ
制度典刑軍國ノ政ヨリ器械ノ製ニ至ルマデ遠
邇同轍海内一家ノ如クスベシ然シテ大小侯伯
藩屏ノ任ニ於テモシ失墜アルハ屹度嚴謹ニ
處シテ可ナリ之レ封建ニ郡縣ノ意ヲ寓シテ内
外彌堅固ナラン

石同議ノ者

筑前

栢原

三池

小幡

弘前

笠間

奉對御國體問題四條

第一

夫國體ハ萬世ヲ亘テ動スベカラザル者ナリ
天祖肇テ鴻基ヲ立テ玉ヒシヨリ四海一統
皇胤無窮其間乱臣大權ヲ攘ムコト有ト雖モ肯テ
一人ノ天位ヲ覬覦スル者ナク君臣ノ義確立
シテ今日ニ至レリ夫君臣ノ義ハ天地ノ大經人
倫ノ大本ニシテ苟モ義ノ在ル所死生ヲ不顧臣
子ノ合ヲ盡ス是所謂和魂ヲ稱スル者ニシテ即
チ宇内萬國ニ冠絶スル所以ノ國體ナリ國體已

ニ立テ禮制始テ定リ政教即チ行ハレ人心方向
ヲ誤ラズ彼漢土ノ如キハ或ハ匹夫ヨリ起テ天
子タリ又西洋弗狄ニ至テハ庶人ノオヲ撰テ酋
長トシ又酋長ノ賢ヲ推テ天下ノ主トス嗚呼國
體ノ霄壤ナル識者ヲ不待シテ可知也今ヤ醜夷
日ニ迫リ蠻風月ニ行レ内賊未ダ平ガズ人各礼
ヲ制シ家自ラ俗ヲナス人心惑乱シテ適從スル
所ナシ今日大基礎ヲ立ツルヤ國體ヲ慮ラズ夷
狄ノ政教ヲ旨トセバ果シテ

ル者人心ヲ正スルヲ以テ政道ノ本トナシ天下
ル者正心止ニ事ルヲ以テ生平ノ素志ト爲ハ万
民心紆繫同一ニシテ義ヲ畢出忠ヲ願フノ誠自
ラ生セン果シテ然ラハ天下ノ事何ヲ爲シテ成
ラザラン況ヤ制度ノ變革ヲヤ所謂政事ノ大基
礎万世ノ國是ナル者上下一致正心以テ皇基
ヲ護ルニアラズヤ否ヤ

第四

王化未洽外夷頻ニ覬覦シ内國未ダ寧靜ナラバ

シテ天下ノ人民生ヲ聊ゼザレバ封建ノ制度ヲ
變革スル今日ノ理勢決シテ行フ可ラズ前件論
ズル所ノ如ク皇國永世不拔ノ大基礎確定ノ
後事理ヲ明察シ大勢ヲ洞見シテ而後徐々ト之
ヲ議シテ可ナランカ

右同議ノ者

人吉 松本 一橋 秋田 敷賀 黒羽根
松代

此其大略ナリ其他ハ省テ載録セズ

[illegible]

官版御用

御彫刻所

神田旅籠町下目

竹口龍三郎

御書物所

本町四丁目

上州屋惣七

明治二年己巳五月

公議所日誌

第十四上

公議所日誌第十四上

五月十二日會議。付例刻議長大原少將當分副
議長神田孝平學校權判事仙石越前守同權判事
心得豐岡前大藏卿議員五百四人參聽。諸侯板
倉教之助戶田長門守松平佐渡守松平主計頭生
駒讚岐守京極備中守松平攝津守蔣田相模守米
倉丹後守森川内膳正森對馬守關伊勢守稻垣對
馬守并諸藩參聽人例席へ出仕議員例刻ヨリ

民間所持船規則案ノ可否ヲ決定シ第十一字半
ヨリ第八号外國人ニ被雇候者規則案ノ評論ヲ
讀上^ルガ且論^スジ^テ今日配分ノ議案ヲ受取一同
退散ス

第七号民間所持船規則案可否決定ノ藩々
可トスル者百九十一人

佐伯 秋田新田 松本 井上河内守 喜連川
津 笠間 尾州 嶋原 森 熊本新田 水戸
佐野 昌平學校 大聖寺 高鍋 芝村 廣瀬

勢州龜山 宮津 前橋 宇都宮 戸田大和守
鯖江 薦野 廣嶋新田 駿州 舉母 宇和嶋
麻田 山家 館林 一宮 西尾隱岐守 高岡
豫州吉田 越前 櫻井 長尾 柳本 多度津
唐津 山崎 栢原 母里 鶴牧 福山 結城
高富 長瀬 秋月 一橋 日出 吉井 峰山
田原 高遠 淺尾 松山 烏山 林田 宇土
黒石 大垣 椎谷 福江 吹上 新宮 加納
安志 佐倉 濱田 下妻 糸魚川 淀 筑前

丹州龜山	伯太	足守	延岡	高取	山上	庭瀬	郡上	三根山
平戸新田	今治	三春	三田	平戸	三草	志筑	富山	高田
園部	三州吉田	豐岡	今尾	古河	小田原	福本	岡崎	笹山
加州	龍野	綾部	丹南	大洲	犬山	村岡	鹿島	小幡
紀州田邊	持木	九龜	開成學校	小倉新田	岡部	中津	作州勝山	飯田
	七日市	壬生	三日月	大田喜	大垣新田	岩村	新發田	岡山新田

彦根	高寄	飲肥	伊勢崎	八戸	房州勝山	常州府中	尼崎	生實
島羽	狹山	雲州	福知山	岡	久留里	西大路	肥前	府内
弘前	萩野山中	紀州	小見川	岸和田	田安	小濱	松代	杵築
安中	津和野	中村	沼田	肥後	久居	高槐	膳所	守山
上田	鴨方	小野	柳河	岩槻	飯野	川越	矢島	龍岡
田沼玄蕃頭	新庄	人吉	明石	敦賀	水口	出石	高島	小城
		新谷		館山			長島	三上

久留米 姫路

否トスル者五人

櫛良 大田原 土浦 足利 丸岡

可否相雜ル者一人

須坂

因テ可ト決シ候事

第八号外國人ニ被雇候者規則案二條

第一

誰人ニ限ラズ官許ヲ不受外國人ニ雇ハレ候儀

可爲嚴禁事

第二

外國ノ官職ヲ受ケ候儀官許ヲ受ザレバ嚴禁ノ事

右之通御規則相立候テハ如何

外國交際課

右評論鈔出

見玉 精

第一條彼ノ狡猾ニ惑ハザル様懇諭アリテ後官

許アルベシ

第二條何ゾ彼ノ官爵ヲ受ケ臣僕トナルノ理アラシヤ斷然嚴禁スベシ

加藤右門

第一條官許ヲ受ル者ハ假令下賤ト雖モ彼ニ雇ハレ候ハ我國命ヲ奉ズルニ在テ彼ガ奴隸タラシメザルヲ要ス

第二條大略前同論

京僧彦助

第一條官許ヲ受ルニハ府藩縣宰主ノ免許ヲ受ケ然後國郡村邑ノ名宰主名主等ノ姓名迄詳記シ其上外國人ニ雇ハル、趣ヲ記載シ出願ノ上官許ヲ受ベシ且男子ニ不限女子モ同斷嚴禁ニ仕度候第二條大略前同論

宇田節之助

第一條宜シク其人ノ善否ト外國人ノ情實トヲ詳察シ且雇ハレ人進退ノ權專ラ我ニ歸セシムベシ

第二條大略前同論

生田郎兵衛

第一條彼ニ雇レ候者ハ男女ニ不限其本人ヨリ
稅銀ヲ取ルノ法ヲ立テハ如何哉且我國情ヲ密
告スル等ノ弊ヲ絶ツノ規則ヲ確定スベシ

第二條大略前同論

佐木鏐五門

第一條至當ナリ然レモ假令豫メ官許ヲ請フモ
其戶籍分明ニシテ質朴正直ノ者ヲ撰バ之ヲ許

第二條大略前同論

龍郎左門

第一條願クハ官許ノ儀モ極メテ無ラレ事ヲ要
ス
第二條大略前同論

兩森謙三郎

第一條外國人ニ雇ハル者ハ官府其人ニ給
ルニ印鑑ヲ以テシ其居住地姓名年齒等ヲ記スベシ

第二條官職ヲ受ル等ノ儀ハ嚴禁ノ事

二條共ニ大略同論ノ者

藤田克之助 増田 貢 岡本治兵衛 近藤幸止

錦織四郎大夫

第一條允當ナリ但シ雇レ中ハ年限ヲ立テ可ナ
ラシ

第二條官職ヲ受ル等ノ儀ハ嚴禁ノ事

二條共ニ大略同論ノ者

平山小太郎 稻津 濟 飯田逸之助

新宮左太夫

第一條官ヨリ許スハ限月ヲ以テ許スベシ

第二條官職ヲ受ル等ハ嚴禁ノ事

三橋 肇

第一條外國人ニ雇レ奴隸トナル者四民ハ嚴禁
シ穢多ヲ以テ之ニ許スベシ

第二條大略前同論

中川潜叟

二條共大略同論

柵原專藏

第一條允當ナリ但シ士分以上外國人ニ雇ハル

儀豫メ禁令アルベシ

第二條官職ヲ受ル等ノ儀ハ嚴禁ノ事

戸田保

第一條卑賤ノ者ハ格別雙刀ヲ帶シ候者ハ願出
候共容易ニ官許無之御内定ニ仕度候

第二條大略前同論

本多數馬

二條共大略同論

京極常樹

第一條御國民生産ノ道相立外國人ニ雇ハレ候
者忤無之様仕度候

第二條官職ヲ受ル等嚴禁ノ事

下津權内

第一條我國人外國人ニ雇ハレ支那印度ノ轍ヲ
踏候テハ可憐ノ至リナリ斷然制止スベシ

公議所日誌十四上

小柴 鎮

右至當ナリ然レ其條約ヲ新設セズンバ遂ニ行
レ難カラシ

成田作衛門

第一條至當ナリ就中婦女子ニ至テハ尤嚴禁ス
ベシ若シ出生ノ子アラバ官ハ届ケ年限ヲ立テ
本邦ニテ養育シ年限過レバ他邦ハ轉住セシメ
本邦ノ人種ヲシテ乱サシムル勿レ

入江事

右微賤ノ者ハ迷惑ノ次第モ有ルベシ且彼ハ聞

ヘテモ隔意ノ嫌アリ此規則不相立方カ

松下直衛

第一條最可然候教化ヲ厚フシ風俗ヲ正シ聊
ノ給料ニテモ皇國內ノ人民ニ仕ヘ外國人ノ
奴タルヲ耻ト思ヒ人心ノ方向漸々改リ候様ノ
御處置アリシ

高木大之進

第一條至當ナリ自今彼ニ雇ハル、片ハ官ニテ
篤ト勘考ノ上雇ハル月數且免許ノ鑑札ヲ渡シ期月來

ラハ疾ク歸リテ良民タランヲ諭スベシ且
皇國ノ汙辱ニ成ル程ノ儀アラバ嚴科ニ處スベ
キ儀モ屹度申付誓狀ヲ取ルベシ
一妾ト乳母トハ年限ノ定メ無キモ有ルベシ誓
文狀ニハ及ブマジ只免許ノ鑑札ヲ與フベシ
一彼國ノ學術等稽古ノ為メ年期ヲ定メ其師ニ
寄ル者并ニ年季ニテ雇ハル、者ハ鑑札ヲ與ヘ
壹ケ年ニ一度返リ來リ改ムベシ
一第二條ハ御許シ無キ方可然候

那須金室門

第一條即今ハ先ヅ官ハ請テ進退スルヲ御差許
相成追テ大基礎立テ後御法則相立候様仕度候
尤婦女子異國人ノ妾ニ抱ラレ候儀ハ制禁仕度候
第二條藝術通達彼國ニ信用セラレ候者ハ年
限ヲ定メ御差許可然候

堀江皇門

第二條官職ヲ受ルノ儀ハ彼政府ヨリ我政府ハ
何某ヲ官ニ任ジ度旨頼入レ評決ノ上許諾シ名

指シノ者ハモ心得達シ置キ彌官職ヲ受ル節尚
當人ヨリモ届ケサスベシ

井上周藏

右規則至當ト云フベシ然レ氏只一己ノ利ヲ貪
リ彼ノ奴隷トナル者有間敷トモ謂ガタシ若如
此者アラバ說諭ヲ加ヘ官許モコレナキ様御處
置アリタシ

綾部誠一郎

第一條至當ナリ男女ニ限ラズ免許ノ印鑑ヲ渡

シ證印稅ヲ貢收セシメテモ可ナラン且雇レ候
者過失アリテ償金等ノ事ニ及ンデモ政府ニ関
係セザルヲ要ス

野村倫右衛門

右ハ官許ナク只嚴禁可然カ

赤見爲左門

外國人既ニ國民ヲ雇ヒ候上ハソレ相應ノ官職
ヲ與ヘマシキモ云難シ外國人ハ談判ノ上嚴禁
ヲ立ベシ

此議案ニ改正ヲ加フル左ノ如シ

坂田 芳

第一

外國人ヨリ我官府ハ請ヒ受ケ無之私ニ彼ノ雇
トナル儀可為嚴禁事

但シ何地ニテモ衣冠佩刀其他堅ク國体ヲ相
守リ彼我ノ待遇内外ノ分別屹度不可亂事

第二

外國ノ官職ヲ受ル儀可為嚴禁事

第三

右ノ二則ヲ犯ス者ハ可處謀叛謂謀背國之律事

第一條官許ヲ受シメンヨリ一切之ヲ禁ズルニ
如カス 由邊 確

第二條官職ヲ受ル事ハ千載不可有モノトス萬
一如此ノ兆アレバ不得已規則ヲ立ツベシナレ
氏如此ノ規則ヲ生ズルヲ義理ノ天下ニ明ナラ
ザルニ出ル所ナリ

第二條官職ヲ受ルハ臣下ニ的セリ汚辱コレヨ
リ大ナルナシ何ゾ官許ノ有無ヲ論ゼシ

大畧同論

西村捨藏

増田鏗太郎

第一條是迄官許ナキ者モ以來取調ベ夷人ニ被
雇候太ハ官許ヲ受ケ然ル後雇ハレ候様ニ規則
相立度事

中野重明

第二條外國事務ニ關係スル小吏輩ハ彼ノ官職

ヲ甘ジ受ケンモ計リ難シ此規則嚴ニ設ケザル
ヲ得ズ且自今外國人護衛ノ者ハ御國威ヲ落サ
バル意ヲ體スル人ヲ撰出アルカ又ハ之ヲ廢ス
ルヲ談判スベシ

中里行藏

同論

鎌田平十郎

第一條官ノ公法ヲ以テ論ゼバ禁ゼバシテ舊ニ

仍ラザル能ハズ一人ノ私義ヲ以テ論ズレバ固
ヨリ彼ノ雇役ヲ受難シ然ラバ之ヲ許スハ廉
恥ノ風ヲ破リ之ヲ禁ズレバ交際ニ妨アリ故ニ
不得已情狀ヨリ起リテ彼ノ雇傭ヲ受ル者ハ問
ハズシテ可ナラン

第二條官職ヲ受ル者等ハ削籍シテ 皇國ノ民
ニ非ザルヲ示スベシ

大畧同論ノ者

儀部寛五郎 加藤勇雄 櫻庭太次馬

園田保

我國内ノ者廉恥ノ心アラバ豈外國ノ官職ヲ受
ル者アランヤ況ンヤ官ヨリ許可スルノ理有ン
ヤ

水野立三郎

同論

中澤見作

第一條外國人吾男女ヲ雇ヒ小過アレバ之ヲ鞭
ツ一實ニ見ルニ忍ビズ故ニ其役負ヨリ其罪ヲ

懲シテ外國人自ラ手ヲ下スナキ條約アリタシ
且幼男女ヲ買却スルヲ禁ズベシ
第二條外國ノ官職ヲ受ルヲ官許タルハ甚不可
ナリ然レハ交際上ヨリ不得已暫時彼ノ官職ヲ
受ルハ官許スベキカ然レハ杜漸ノ法無ル可ラ
ズ故ニ衆心標準ノ規則ニハ立ツ可ラズ
同論
此外猶評論アリ下卷ニ出ス
本日箱訃ヲ閲閱ス
依畧衛門二郎

官版御用

御彫刻所
神田旅籠町二丁目
竹口瀧三郎

御書物所
本町四丁目
上州屋惣七

明治二年己巳五月

公議所日誌 第十六下

定價二匁

公議所日誌第十六下

第十号議案撮略

切腹禁止可然ノ議

議政官

小野清五郎

右評論鈔出

藤田克之助

議案中本邦云云ヨリ承及候迄ヲ刪去ラバ如何
我邦自古切腹シテ義ヲ全フスル者多ク且切腹
ノ事皆廉恥上ヨリ起ル之ヲ禁ゼズシテ廉恥ノ

心ヲ養ハシム亦強兵ノ一端ナリ

輕部鷯彌

罪ヲ悔テ直チニ屠腹スルハ死シテ跼蹐ノ苦ヲ
免ル何ゾ刑憲ヲ蔑スト云ハンヤ何ゾ罪科ヲ償
ト云ハンヤ死シテ漸ク人タルヲ得ルナリ活ク
レバ素ヨリ姦邪ニシテ死スレバ始メテ廉恥タ
ル可シ強テ之ヲ禁ゼバ廉恥ノ公道ヲ鎖シテ姦
邪ノ私道ヲ開カン

平忠右衛門

切腹禁止ノ議至當ト存候得共皇國ノ士風凜
然西洋各國ト異ナリ之ヲ禁ゼント欲セバ先ヅ
法度律令ヨリ漸々施シテ西洋各國ノ風ニ移ラ
ザレバ只切腹ノ一議ノミヲ行ハント欲スルモ
恐クハ難カラシ

吉田權藏

死刑ニ處スルハ典刑ニ觸ル、處ニシテ固ヨリ
不得止ナレ氏士道廉恥ヲ以テスルガ故ニ切
腹ニ行フコニシテ尋常奴隸ノ罪人ニ比シ難シ

又其罪未だ定ラザルニ切腹スルハ不經ノ甚キ
ナリ國典アリ遁ル可ラズ假令死後ニテモ罪ヲ
正シ夫々ノ處置アリタシ

柏木兵衛

方今ノ急務ハ基本ヲ立ツルニアリ切腹ノ如キ
ハ基本立テノ上議スルモ晚カラズ

中野重明

我神州ノ士罪ヲ含ミ割腹スルコアリ此舉禁ス
可ラズタトヒ禁スルモ割腹者後日ヲ顧ズ豈之

ヲ拒ムヲ得ンヤ且是レ即チ日本魂ナリ寧ロ窮
理上ニ刑ヲ省カンヨリ武門ノ士ヲシテ廉恥
風ヲ興起スルノ刑アルニイヅレ是レ皇國ノ
外國ニ冠絶スル所ナリ

加集寛介

大略同論

今井金平

切腹ヲ稱揚スルハ所謂義氣廉恥ヲ尊ブナリ其
罪未だ定ラザル者自ラ屠腹シテ其罪ヲ償フト

又其罪未だ定ラザルニカ夏ニ

モ豈徒ニ斯ニ至ル者アラシヤ然ルヲ今之ヲ禁
ゼバ後世柔弱ノ風ヲ導カン

大略同論ノ者

羽室雷助 四王天兵亮

加藤修造

切腹ノ科ハ存スルヲ可トス命ヲ待タズ自ラ切
腹スルハ之ヲ禁ズ凡用ヒザルベシ因テ之ヲ存
シ士大夫ヲシテ自ラ其廉恥ヲ養ハシムルニ如
カズ

近藤幸止

我國西洋ト士ヲ養フノ道自ラ異ナリ專ラ義氣
ヲ引立ル事ナレバ之ヲ禁ゼバ士氣頽敗却テ國
家育材ノ御趣意ニ戾ルベシ

大略同論ノ者

中澤見作 友松勘之丞 和田理兵衛 岡本太郎

栗山誠一郎

不朽ノ國是ヲ定ムルニハ國體ヲ立開鎖ノ二字
ヲ詳ニスルヨリ急ナルハ無シ否ザレバ定律ヲ

又其罪未だ定まらざらん。又
討論スルノ間或ハ開鎖混淆ノ議彼是矛盾ノ説
モ有之ベクト存候今議案中西洋各國ニ絶テ無
キ所ト云云是レ蓋シ彼是教ヲ異ニスルノ然ラ
シムル所ナリ且議案ニ云云スル所ハ自殺ヲ禁
ズルノ意ナルベシ然レドモ自殺スル者ハ自ラ
罪ヲ知テ自殺スルナリ何ゾ不可ナラン況ンヤ
命ヲ受テ自殺スル者ヲヤ如此ノ類彼國體ニ因
テ吾國體ヲ論ゼバ開鎖混淆矛盾ノ説ニ決ル
ベシ

武田平之助

割腹等有之ハ本邦ノ美俗ニシテ海外諸國ニ殊
絶スル所以ナリ益廉恥ヲ磨勵シ士氣ヲ鼓舞ス
ベキニ却テ之ヲ禁ゼントハ國家ノ元氣ヲ損シ
固有ノ和魂ヲ奪フナリ之ヲ禁バル決シテ可ナラス

大略同論ノ者

河口市之進	山本四郎	関	左門	鈴木才藏
二階堂貢	飯田逸之助	鎌田平十郎	津川奇雲	
三田稱平	澤邊弘三郎	富野見助	太田省吾	

岡田 孝	山本昇之助	宮田深藏	白石左衛門	高木東一	片岡旗之助	仙石右兵衛	增田 貞	平井東馬
戸田 保	高木大之進	横手左衛門	戸田 保	岡本直記	大田原高	三橋 肇	望月太兵衛	藏田寛之助
桑原政右門	永野壽郎兵衛	清水右衛門	桑原政右門	小泉重兵衛	毛受將監	久松修理	岡野小平治	赤見為右門
峯岸正愿	持永治兵衛	加藤右門	麻見達左門	小林儀左衛門	加藤小左衛門	坂口音度	高柳安左門	高柳安左門
生田小膳								

児玉 精

士ヲ刑スルニ屠腹ノ典アルハ至當トス有罪疑
似 朝裁ヲ待ザル者事不經ト雖モ亦緊論シ難
シ或ハ廉恥感動シ不得已此ニ至ル者アリ之ヲ
禁ズ氏徒法ナラン

大略同論ノ者

田元謙藏 小原兵部 青出郎左門 大津武五郎

池田勲二郎

割腹自盡ハ本邦ノ士勇敢氣節ニ出ル所ナリ故

ニ自盡ヲ聽シ或ハ之ヲ命スルハ士氣ヲ培養ス
ルノ道ナリ且士以上ハ磔罪梟首ヲ除クノ外斬
ニ處ズベキ者自盡割腹ヲ命ズルモ可ナラン

鶴居彦左門

大略同論

磯部寛五郎

死ヲ賜ヒ割腹スルハ刑律ノ一ナリ之ヲ禁ズレ
バ政體ニ差支アラシカ且命ヲ奉ゼズシテ自殺
スルモ或ハ君父ノ爲メ或ハ義理上忍ブ可テダ

ルヨリ出ルノ類ハ其事實ヲ洞察シ寛恕ヲ以テ
病死トシ其節操ヲ遂サスルモ却テ仁恤ナラン
何ゾ西洋人ノ柔弱ニ擬シテ之ヲ禁ゼンヤ

士ヲ刑スル切腹ノ科御制止ハ尤可然氣概廉恥
ヲ知レル士其罪曖昧ニシテ自カラ切腹シテ罪
ヲ償フハ制止アルモ容易ニ制ス可ラズ

大略同論

善野司

切腹ハ我國貴士ノ良法廉恥ノ發スル所以ナリ
決テ禁ズ可ラズ不待命屠腹スル者ハ禁ジテ可
ナラン併シ行ル可ラズ

井上周藏

切腹ハ武門ノ道ヲ達シ刑不上大夫ノ意ニ適
其不可ナルヲ見ズ命ヲ不奉シテ切腹スル者モ
或ハ君ヲ諫テ死シ或ハ國難ニ死シ皆至誠惻怛
ノ情ヨリ出ヅ之ヲ禁ズルモ止マル可ラズ

佐藤右衛門

太略同論

平山小太郎

切腹ノ科ハ武門ノ士農工商ト違ヒ有ル處ニシ
テ士氣ヲ振起スル所以ナリ不待命者モ其義膽
氣概却テ稱スベシ西洋各國ニ無キ所ト雖モ
皇國ノ風氣異ナル所以ニシテ且貴人ヲ敬シ士
ヲ愛スルノ良法ナラン主人一旦ノ怒リニ死
賜ヲ如キハ嚴禁タルベシ

小笠原權左門

大略同論

石原七郎

本多數馬

切腹ノ事各國ニ無クシテ 皇國ニノミ有之ハ
皇國ノ 皇國タル所以ナリ命ヲ待タズシテ自
裁スルモ一端ニ非ズ或ハ君父ヲ諫メ聽レズ死
ヲ以テ諫ムル者アリ或ハ國ノ爲メニ死シテ國
難ヲ掃フ等アリ豈曖昧一事ヲ以テ切腹禁止可
然ト云ハンヤ且己ノ罪アルヲ知ラバ豈他人ニ面

ヲ合スルニ忍ビシヤ故ニ自裁スルハ廉恥ノ廉
恥タル所以ナリ

大略同論ノ者

長崎鉛十郎 千野良之輔

加藤勇雄

切腹ハ我國固有ノ良法ナリ廢ス可ラズ其他罪
ノ有無ヲ不辨公命ヲ不待ハ切迫狂亂ノ輩ナリ
之ヲ禁ズルモ可ナリ不禁モ害アラズ

伊達五郎

西洋ノ鈍刀切腹ノ器ニ非ズ切腹ハ勇氣愉快ノ
所業ニシテ賞譽スベキモアレド多クハ過慮ニ
出レバ廉恥質直ノ弊ト云テ可ナラシ其餘ノ自
殺ハ矇昧ノ所業ナリ故ニ國家ニ益ナク其事不
經ニワタルハ切腹ニ限ラズ都テ自殺ヲ禁ジテ
可ナリ

中川潜叟

本邦士ヲ刑スルニ切腹ノ科アルハ實ニ良典也
切腹スルハ我罪ノ死ニアルヲ知テ悔悟自ラ處

スルナリ和魂ノ稱揚スベキ處ナリ禁ベカラズ

岩崎豐太夫

割腹ハ世教ヲ扶持シ氣節ヲ勵マズ所以ナリ之
ヲ去ラバ漁恥衰フバシ然レドモ氣概アル者其
罪矇昧ナルハ悔悟奮勵セシメ報效ヲ圖ラシム
ベシ

杉森節兵衛

切腹ノ禁行レガタキ而已ナラズ禁ジテ止マズ
ンバ徒ニ之ニ因テ無辜ノ灾疾ヲ罪スルニ至ラ

ン且自裁ハ 皇朝義ヲ重ンズルノ美俗ナリ扶
植スルモ猶足ラザルヲ恐ル何ゾ之ヲ壞ルベケン

小関與右門

切腹自裁ノ禁令ハ禮義廉耻ノ心ナキ國ニ行フ
ベシ我 神州維新ノ今日豈制度ノ議スベキ
ナランヤ

若林勘兵衛

本邦勇武剛直ノ氣未ダ消ヒセズ切腹シテ死ヲ
取ル者アリ西洋ニ有無ヲ論ゼズ士大夫以上ニ

用ユル一國人ノ情ニ適フ從前ニ依ッテ行フ
ニシ其餘論スル所件々禁スルモ益ナシ

村田忠之丞

切腹ハ 皇國ノ萬國ニ超ユル所ナリ之ヲ禁ズ
ルトモ行レザルベシ先ヅ止ムト不止トハ西洋
學ヲ関クルト開ケザルトニ在リ嚴令アリトモ
皇國ノ節義ハ俄ニ不可止但シ囹圄中ニテ罪ヲ
不純鳩殺スル等ノ弊ハ革正スベシ

赤岸兵藏

若シコレヲ嚴禁シ到底辨解ヲ以テ直トセバ應
耻ヲビシ死ヲ重ジ義ヲ輕ジ其身ヲ直フシテ以
テ君父ヲ訴ルニ至ラン西洋ノ鄙俗ニ倣フベカラズ

新宮左太夫

切腹ヲ禁スルハ武士廉耻ノ心ヲ養フニ妨アリ
姑ク舊ニ因テ可ナリ國是ノ大基礎未ダ立ザルノ
際枝葉ノ末事ヲ改革スルハ倒置ト云ベシ

富松何右衛門

自ラ切腹シテ其罪ヲ償フハ禁ジテ可ナラン然

レトモ其罪一輕重アリ輕キハ過ヲ悔ヒ自艾シ
テ奮發勉勵セバ國家ニ裨益アラン罪ノ重キニ
至テハ刑法ヲ甘ンジテ罪ニ服スルハ士道ノ耻
ベキナリ故ニ糾問ヲマタズ割腹シテ罪ヲ償フ
ハ武門ノ稱揚スル所也西洋各國ニ倣ヒ輕重ト
モニ禁止スルノ理アランヤ

秋元慶之丞

命ヲ奉ズルモ命ヲ待タザルモ切腹スルニ隔ア
ランヤ自ラ切腹スルハ其罪ヲ償フ為ニテ本邦

ノ義ヲ先ニスル所何ゾ西洋各國ニ比セシ禁止
スベカラス

岡田又吉太郎

切腹ハ皇國廉耻ノ士風ナリ此令ヲ立ンニハ
禮義廉耻ノ風ヲ破リ外夷ノ風ヲ甘ジ國人皆胡
服スルニ至ラザレバ行レガタシ切腹ヲ禁ゼシ
ヨリハ寧ロ新ニ刑典ヲ正シ教道ヲ盛ニシ天下
ノ士人ヲシテ大義ヲシラシメンニハシカズ如
此ナレバ一朝ノ事ニ其身ヲ殺ス弊ハナカルベシ

長坂鐵之助

切腹ノ科アルヲ是士ヲ貴ンデ廉耻ヲ知ラシム
ルノ法ナリ命ヲ待タズシテ切腹スル者或ハ君
父ノ命ニ代ル等アリ誠ニ可貴ナラスヤ願クハ
從來ノ法ニ立ヲカレ益士氣ヲ養ヒ自ラ屠腹セ
シノザルノ美政アラントヲ仰望ス

坂田 莠

切腹ハ神州ノ正氣ニ發源シテ大和魂ノ寓ス
ル處ナレバ決シテ禁スベカラズ益作振ンテ廉

耻ノ心ヲ養ヒ世界第一ノ義舉美談トスベシ依
テ刑律ニモ士分以上ノ死罪ニハ切腹ノ目ヲ立
置クベシ

岩本範治

切腹ハ大ニ義氣ヲ鼓舞シテ翻テ育材ノ一端ト
ナラン禁セザルハ政教自ラ其中ニ在ニカ且之
ヲ禁ジテ何ノ科ヲ以テ此科ニ代シ此等ノ事措
テ不論シテ可ナラン

錦織四郎太夫

本邦士大夫罪アレバ或ハ死ヲ賜ヒ義生ヲ可ラ
ザレバ命ヲ待タズシテ切腹ス其仁厚義烈萬國
ニ絶テ無クシテ僅ニアルモノナリ今其僅ニア
ルモノヲシテ併セテ禁ゼント欲ス亦謬ラズヤ

同論ノ者

田邊 確 北村經藏 増田鏑太郎

熊谷貞藏

日本ノ士ハ禮義廉耻ヲ尊ブ氣節ニメ今切腹ヲ
禁マル氏死ヲ極マル時ニ至テ豈何ゾ切腹ノ

禁止ナルヲ用セン先ヅ置テ禁セザルベシ

同論ノ者

岡田勘五郎

矢田武右門

塚本九郎

入江 事

能見權五郎

人見秀雄

樋口郎五郎

矢吹卯之二

神原專藏

士ヲ刑スルニ切腹ノ法アルハ刑名ノ正ニ非ズ
議者ノ説尤得タリトス命ヲ待タズシテ切腹云
々ハ切腹ノミニテハ盡サザルニ似タリ概シテ
自殺ヲ指スナラン又其人果シテ無罪云々ハ殊

ニ謂レナシ士ノ此舉ニ及フ者ハ所謂氣概アリ
テ廉耻ヲ知レル者ナリ如此ノ士ハ豫メ法禁ノ
制止スベキ所ニ非ズ其人罪アリ自悔殞命ニ至
ルハ可憐ト雖モ其性質ヲ推スルハ法ノ有無ニ
拘ラズ亦是國家基本立チ風俗一定スル上ハ禁
ビズシテ已ムノ理ナラン

帆足龍吉

士モ死刑ヲ犯サバ不殺ヲ得ズ果シテ切腹ノ科
ヲ廢セバ何ヲ以テ之ニ代ンヤ均シク死ニ處ス

寧此律ヲ存スルニシカズ且士ノ不待命自刃ス
ルハ自ラ罪死ヲ免レザルヲ知レバナリ自首耻
ヲ受ルハ激烈ノ徒屑トセザル所アルベシ屠腹
ト否トハ其人ノ意ニ在リ法令ノ可禁ニ非ズ法
ヲ設ケテ行レズンバ威權ヲ損シ且士氣ヲ挫カ
ン獨リ疑似ノ罪ニヨリ不待官裁自刃スル如キ
ハ禁令ヲ設クルモ可ナリ

糟屋權兵衛

其罪未ダ定ラザルニ切腹スルハ禁スルモ可也

然レ氏一概ニ切腹ヲ禁ズルハ至當ナラズ是レ
皇國ノ萬國ニ冠絶スル所以ナリ

大畧同論ノ者

恩田啓吾

志賀律三郎

蜂屋新

有馬峻太郎

松崎元右衛門

林慎助

島田平右衛門

大久保金吾

佐藤榮

舊制ノ如ク士タル者若シ死ニ當ルノ罪アラバ
執縛ヲ加ヘズ市ニ暴サズ家ニ自盡スルヲ聽シ
賤民ト刑ヲ異ニシテ可ナリ命ヲ待タズシテ切腹

スルハ不經ト雖モ心ニ死ヲ決スルハ事情ニ因
テ存スルニ忍ビザル所アレバナリ一様ニ論ジ
ガタシ

大畧同論ノ者

黒石涯 波多野治右門 下津權内 笠間英之進
岩田瀬左衛門 稻垣隼人

富田三藏

切腹禁止ノ議至當間然ナシ然レモ此科ノ由テ
起ル所以亦不得已理アリ 朝廷政道公明ナラ

バ過ヲ見テ仁ヲ知リ人情ニ因テ刑ヲ行フノ良
法立ベシ此科ハ嚴禁可ナリ

臼田東

切腹ハ 皇國固有ノ義膽ヲ鼓動スル而已ナラ
ズ其刑ノ庶人ニ異ナル所以乃チ士ヲ尊ビ廉耻
ヲ勸ムルノ教モ亦其中ニアリ願クハ其士道ヨ
リ出来リシ大過ハ割腹ノ刑ニ處シ士道ヲ失ヒ
シ者ハ斬刑ニ處セン
本日箱訴ヲ開閱ス

本館刊行
 御影刻所
 竹口瀧三郎
 御書物所
 上州屋惣七

官版御用

御影刻所
 神田旅籠町二丁目
 竹口瀧三郎

御書物所
 本町四丁目
 上州屋惣七

明治二年己巳五月

公議所日誌 第十七

定價二匁

公議所日誌第十七

五月廿七日會議二付例刺ヨリ議長太原少將副
議長心得神田孝平議員二百四人參聽ノ諸侯内
藤若狹守三宅備後守牧野伊勢守木下大和守稻
葉美濃守奥平美作守宗少將松平河内守毛利伊
勢守京極下總守南部璟之丞市橋信一郎松平日
向守本多主膳正青木民部少輔松平出雲守池田
但馬守山名因幡守加藤熊登守平野遠江守板倉

桶津守加藤遠江守小笠原信濃守青山左京大夫
 櫻井遠江守久留島伊豫守稻垣對馬守米倉丹後
 守諸藩參聽人例席へ出仕議負第十號第十三號
 第十四號ノ議案可否ヲ決定シ後ニ第十二號ノ
 議案評論ヲ讀上ケ且論シ畢テ今日配分ノ議案
 ヲ請取リ一同退散ス
 第十號切腹禁止ノ議可否決定ノ藩々
 可トスル者三人

安志 三池 常州府中

否トスル者二百人
 高崎 今尾 戸田大和守 高知新田 宇和島
 土州 昌平學校 小田原 加納 水戸 鴨方
 尼崎 黒川 阿州 駿州 勢州龜山 三日月
 柳河 宮津 福本 豐岡 太溝 龍野 重原
 紀州田邊 久居 三日月 津 西大路 田安
 笹山 西條 高松 栢原 川越 丹南 矢島
 三春 福江 黒羽 苗米 丸龜 田延岡 芝村
 中津 笠間 大垣 古河 櫻井 岡田 守山

蓮池	狹山	荻野山中	結城	高鍋	大田原
成羽	飯山	沼田	小野	新發田	泉
田原	丸岡	舉母	新庄	下妻	高槻
荻屋	高田	三根山	麻生	廣島新田	龜田
小幡	唐津	椎谷	小倉新田	敦賀	大田喜
濱田	出石	秋月	麻田	秋田新田	糸魚川
峰山	佐倉	人吉	飲肥	中村	雲州
西端	半原	宇土	岩村	長尾	大洲
嶋原	日出	一橋	高取	志筑	淀
					七日市

伯太	新見	飯田	前橋	須坂	松本
高須	新宮	佐伯	牛久	宇都宮	吹上
府内	田沼玄蕃頭	足守	花房	高富	尾州
岩槻	大垣新田	林田	田原本	吉井	鶴牧
飯野	柳生	高島	新谷	彦根	櫛良
鳥羽	伊勢崎	館山	山崎	三上	久留米
三草	鯖江	足利	館林	小城	岡
土浦	越前	園部	高岡	堀江	八戸
大聖寺	多度津	平戸	庭瀬	福知山	壬生

岡崎 長靜 佐野 下館 松代 廣瀬 上田
 高遠 熊本新田 弘前 福山 久留里 小松
 龍岡 今治 小濱 山家 母里 山上 生實
 鹿島 三州吉田 作州勝山 豫州吉田 郡上
 完戸 平戸新田 房州勝山 岸和田 津和野
 丹州龜山
 可否相半スル者六人
 紀州 越前勝山 鳥山 岡山新田 膳所綾部
 依立否 決候事

第十三號鎮守府將軍ヲ置ヘキ議

豊後岡識貞

中川潜叟

磐城中村識貞

錦織四郎太夫

奥羽ノ俗古ヨリ反覆恒ノシ今鎮守府將軍ヲ置

キ其及側ヲ安シキ如何

右可否決定ノ藩々右議案ハ評論ニ及バズ直チニ

可トスル者百六十三人

高松 完戸 土州 長瀬 大垣 下館 水戸
 松本 新宮 三草 田原 山崎 三上 田邊

福本	豐岡	大溝	栢原	鴨方	矢島	須坂
生實	鹿島	赤穂	長島	大野	花房	高遠
福江	蓮池	苗木	西大路	昌平校	高取	
志筑	七日市	膳所	佐野	宇都宮	久留米	
今尾	高崎	紀州	丸龜	黒羽	足守	府内
小松	弘前	秋月	新谷	狭山	高鍋	上山
壬生	結城	峯山	烏山	田邊	吹上	伯太
半原	安志	持木	日出	大洲	櫻井	吉井
薦野	小野	唐津	安中	八戸	高須	敦賀

杵筑	人吉	飢肥	中村	西尾	宇土	薩州
笠間	岩槻	中津	山家	尾州	芝村	高富
館山	一橋	櫛良	飯野	高島	柳生	岩村
長尾	麻生	高田	麻田	濱田	沼田	龜田
高槻	舉女	新庄	下妻	丸岡	作州	勝山
飯山	鳥羽	宮川	喜連川	糸魚川	三春	
勢州	龜山	湯長谷	吉田	太田原	廣島	新田
大垣	新田	久留米	延岡	津和野	小倉	新田
窪舞	郡上	駿州	新發田	大田喜	伊勢崎	

前橋	鯖江	館林	小城	土浦	園部	高岡
田沼玄蕃頭	戸田大和守	熊本新田	宇和島			
堀江	一宮	多度津	越前勝山	牛久	川越	
小諸	三門市	府中	宮津	淺尾	津	黒川
秋田新田	岡山新田	丹州龜山	田原本	與板		
高知新田	萩ノ山中	豫州吉田				
否トスル者五十二人						
三池	加納	安里	岡田	彦根	佐倉	西端
鶴牧	島原	足利	越前	龍野	山上	加州

大聖寺	三日月	三根山	富山	庭瀬	出石
小見川	椎谷	荊屋	松代	福知山	小田原
上田	廣瀬	新見	飯田	田安	久居
林田	雲州	古河	重原	水口	松山
成羽	佐伯	丹南	臼杵	小濱	龍岡
房州勝山	久留里	泉	淀	岡崎	
可否相半スル者四人					
阿州	尼崎	柳河	守山	依テ可ト決シ候事	
第十四號新規株式御許相成候様仕度議					無名

公議所日誌十七

是迄新商賣工夫仕候者ニ株式御許ト申事無御
座候間折角元手ヲ費シ善キ工夫ヲ致シ候テモ
余人直ニ真似仕候間最初工夫仕候者ハ元手ヲ
モ取戻兼候右故自然新規ノ工夫ヲ不致様ニ成
行日新ノ御趣意ヲ失ヒ候様立至申候依之此度
別段改テ御布告有之以來都テ新規商賣申立候
者ハ其株ヲ御許シニ相成安ニ同業ノ者無之
様被成下度尤永代株ト申譯ニハ無之十年又ハ
十五年ト御定其者元手ヲ取戻候上相應ノ利令

ヲ得候様奉願候若シ右年限中ニ同業相始度存
候者ハ株主エ示談ヲ遂ゲ候様仕度且又右株式
御許ニ相成候上ハ相當御運上ヲ株主ヨリ相納
候様被仰付度奉存候右ノ通ニ相成候得ハ新
規商賣ヲ相始候者多分ノ儲可有之儀ニ付銘々
工夫廻ラシ自然智識モ相進ミ遂ニハ御國繁
昌ノ基共可相成奉存候
右可否決定ノ藩々右議案ハ評論ニ及バズ直チニ可否ヲ
決スル者ナリ
可トスル者百六十九人

官川	丸岡	飯山	富山	新庄	舉母	鳥羽
薩州	生實	柳河	田原	三上	守山	高島
長尾	半原	鯖江	三草	山崎	今治	廣瀬
壬生	府内	足守	沼田	西端	庭瀬	薦野
志筑	唐津	八戸	高須	新見	淀	宇和島
福知山	糸魚川	伊勢崎	田沼玄蕃頭	飯田		
前橋	古河	吉井	櫻井	伯太	櫛良	飯野
尾州	中津	岩槻	笠間	大垣	林田	一橋
館林	福本	小城	土浦	越前	堀江	加州

一宮	大聖寺	多度津	喜連川	長瀨	膳所
完戸	郡上	延岡	土州	久留米	岡山
成羽	水戸	佐野	下館	鶴舞	高取
牛久	佐伯	丹南	川越	九龍	黒羽
狭山	山家	柳本	上山	結城	峯山
田原本	宇都宮	七日市	三日市	三州	吉田
作州	勝山	熊本	新田	戸田	大和守
岸和田	湯長谷	津和野	宇土	西尾	佐倉
中村	飯肥	雲州	人吉	杵筑	麻生
					松山

鴨方	久居	吹上	鹿島	尼崎	與板	小倉新田	大溝	泉
昌平學校	生實	荻野山中	丹州田邊	黑川	安中	敦賀	豐岡	花房
持木	苗木	常州府中	高知新田	蓮池	今尾	出石	勢州龜山	秋月
嶋原	西大路	平戸新田	豫州吉田	福江	紀州	濱田	高田	麻田
日出	津	小諸	館山	三池	高崎	駿州	三根山	秋田新田
	小田原			長島	彦根	龜田	椎谷	新發田

否トスル者五十八

高鍋	新宮	龍岡	岡田	高富	田安	高松	弘前
丹州龜山	松本	龍野	母里	芝村	加納	山上	福山
大田喜岡	臼杵	苅屋	小野	鶴牧	淺尾	栢原	重原
小松	小濱	大洲	足利	三日月	大野	矢島	久留里
	房州勝山	安志	園部	上田	岡崎	松代	大垣新田
	小見川	岩村	高岡	廣島新田	高槻	須坂	水口
		柳生	越州勝山		下妻	笹山	

可否相半スル者二人

阿州 大田原

依テ可ト決シ候事

第十二號議案

第一

官吏兵隊之外帶刀ヲ廢スルハ随意タルベキ事

第二

官吏ト雖モ脇指ヲ廢スルハ随意タルベキ事

制度寮撰修

森金之丞

謹而案スルニ人ノ刀劍ヲ帶スルハ外ハ以テ人
ヲ防ギ内ハ以テ己レノ身ヲ護スル所ニテ天下
動亂ノ際ハ又要スバキアリ然レドモ世運漸ニ
文明ニ赴キ人々自ラ道義ノ尊キヲ知ルニ至テ
ハ粗暴殺伐ノ惡習自ラ相息ミ此等ノ物モ畢竟
虚飾ニ供スルニ過ギザルノミ方今國家鎮定
皇運日隆興良法以テ内ヲ正シ兵制以テ外ヲ守
ル此際ニ當テ人各禮節ヲ砥礪シ所謂粗暴殺伐

ノ惡習變シテ道義自守ノ良俗ト化スベキ也故
ニ自今以後官吏兵隊ヲ除クノ外帶刀相廢シ候
儀隨意タルハシ尤官吏ト雖モ脇差相廢シ候儀
隨意タルハシ是何ゾ偏ニ文事ヲ重クシ武事ヲ
輕クスルニ非ズ固ヨリ文武同體唯其名ヲ異ニ
スル者ニシテ政治ノ賴テ舉ル所人各篤ク意ヲ
注ギ兩ラ之ヲ盛興スベキナリ今此ニ陳スル所
ノ二題目ハ唯其弊習ヲ一新シテ聊々皇政隆興
ノ際ニ裨補アラシム事ヲ思而已伏テ諸賢ノ高評

ヲ待ツ謹議

右評論抄出

雨森謙三郎

兩刀ヲ帶ルハ皇國尚武ノ性自然ニ發露スル處
ニシテ素ヨリ嘉尚スベキ所ナリ今之ヲ廢セン
トナシバ却テ士氣ヲ沮ムノ一端トナルベシ夫
利不百不易其法令帶刀ヲ廢シテ其利幾何カア
ル假令隨意ニセヨト令ストモ苟モ大和魂ヲ有
スル者誰カ刀ヲ脱スル者アルベキヤ此等ノ議

維新ノ時ニ於テ大ニ取ラザル所ナリ

大略同論ノ者

坪和錦藏	堀江寛右門	西村捨藏	稻津 濟
新宮左太夫	望月歸一郎	坂口音度	中川潜叟
波多野治右門	錦織四郎太夫	大田原高	宇田節之助
鈴木權作	佐藤 榮	糟屋權兵衛	児玉 精
蜂屋 新	青宅郎左門	菅 敦	熊谷貞藏
毛受鉦三郎	恩田啓吾	岡田又喜郎	帆足龍吉
岡音五郎	望月太兵衛	村田忠之丞	小柴 鎮

加藤鍊之助

中金稱平

磯部寛五郎

平山小太郎

國府寺源兵衛

川西六三

清水六右衛門

近藤幸止

杉浦 誠

長坂鐵之助

高木東一

原株之助

福井大助

中里行藏

澤邊弘三郎

小高半三

高柳安左門

太田省吾

井上周藏

佐々木鑲右門

平井東馬

生田郎兵衛

臼田 東

善野 司

鎌田平十郎

梶又左衛門

加藤右門

本多數馬

輕部鷗彌

大久保金吾

岡本太郎

水野立三郎

瀧澤省吾

高橋和多留

増田鐸太郎

岡田 孝

稻垣隼人	小泉重兵衛	小林儀左門	藤田克之助
富松何右門	嘉次郎左門	河口市之進	那須金堂門
荒井欽吾	戸塚左衛門	生田平格	櫻庭太次馬
岩田瀨左門	岡野小平治	武田平之助	笠間英之進
三橋 肇	久松修理	加集寛介	黒石 涯
藏田寛之助	三輪清助	加藤勇雄	岡本直記
田中哲輔	永野壽郎衛	京僧彦助	松浦鶴治
江良平太衛門	大津武五郎	富永主馬	飯田逸之助
二階堂貢	澤渡雙吉	赤見為左門	石原正三郎

関小四郎	渡邊清右門	北村經藏	矢田武右門
長崎金七郎	野村倫右門	有竹 裕	小原兵部
早川興一郎	官田深藏	久見秀雄	仁木數馬
荒川官三	持永治兵衛	樋早郎右門	内田仲之助
増田 貢	鶴居彦左門	服部清三郎	平山志右門
茂原 肇	田邊九郎左門	山本四郎	加藤修造
下津權内	關 左門	神吉重三	松下直衛
今井金平	安島解三	奥村權之助	戸田 保
柏木兵衛	杉森前兵衛	白石奎右門	小関興左門

小泉重兵衛
嘉次郎左門

三

伴權太夫	赤岸兵藏	山崎傳	田丸謙藏
友松勘之丞	岡本治兵衛	吉田權藏	岩崎豐太夫
桑原政重門	海野三雄	佐藤八重門	高木大之進
柳原專藏	峯岸正愿	岡田勘右門	津川奇雲
和田理兵衛	田代環	小久保權重門	千野良三輔
鈴木才藏	成田重門	三田稱平	小華和太郎

聖上ヨリ士卒ニ通シ帶カスベシ兵隊銃ヲ負フ者小刀ヲ脱スルハ臨時便ヲ取ル妨ゲナシ

若林勘兵衛

岩本範治

帶刀ハ不可廢只輕卒及ヒ處士一刀ヲ佩ビ小者町人ハ一刀ヲ佩ルモ禁シテ可ナリ

大久保金吾

我邦古制天下無事ノ日ハ兵仗ヲ兵庫ニ藏メ私携ヲ許サズト聞ケリ今ヤ萬機復古ノ時ナレバ議案ノ意モ據トコロアルニ似タリ然レドモ古今勢ヲ異ニス今日此令一タビ下ラバ士氣衰耗セン此議用ユ可ラズ

中野重明

神州ノ正氣此器ニ存ス苟モ武士ノ
稱號アラシ限リハ不可廢御一新ノ
際官武ノ別ナキ上ハ縉紳家モ平日双刀
ヲ帶セシムベシ

大略同論ノ者

松崎元右衛門 有馬俊太郎

園田保

居治不忘乱謂之武之善經况居乱忘乱其謂之何

方今ノ時ハ抑如何ナル時勢ゾヤ且士大夫ノ帶
刀ハ以戈止戈拔カヌ太刀ノ功名ニテ武中ニ文
ヲ寓スル自然ノ妙理ナレバ尚此上ニモ増シ帶
刀ノ況ヤ敢廢センヤ教化苟モ行届カバ何
ゾ粗暴ノ徒アルヲ患シ苟モ行届カズハ身寸鐵
ヲ不佩モ豈暴舉ノ者ナカラシヤ

毛受將監

風俗ヲ變ズルハ不容易ニテ此兩條ノ如キ其
得少シテ其害多シ變更ス可ラズ

士分以上ハ必カラ帶ベドモ農工商共ニ必シモ
一カラ禁ゼズ又必シモ之ヲ強テ帶バシメザル
ハ即チ本文ノ随意ナリ自ラ國體適宜萬世不可
改ノ制也本文官吏兵隊ノ外ト云ハ士以上中ニ
テ特ニ文武ノ學生等ニ限ルニ似タリ文武學生
ハ即官吏兵隊ノ修業ヲスル者ナリ奚ゾ随意廢
カセシム可シヤ

第二

脇指ハ從前堂上以上式正ニ武士ノ如クアラハ
ニ挾マレゾト雖モ其製其用古來顯然決シテ廢
シ難シ若シ廢スルキハ必之ニ換ルニポストル
ノ類ヲ用ヒン不改ノ勝ルニ如カズ但シ卑者尊
者ノ前ニ出ルキ脱劍ノ制限ハ位階ニ應ジ嚴ニ
立タシ

大畧同論

笹尾五郎八

依田右衛門郎

此議 皇國ノ人情ニ背キ其不可ナル論ヲマタ
ズ別ニ議案ニ因アル規則ヲ著ス

一文武一途ノ制立シ上ハモト文官タリシ者モ
雙刀ヲ帶セシムベシ

一君前ニ伺候スル近習ノ臣ハ必ス刀ヲ帶スベシ

森修

随意帶刀ヲ廢セハ士商ヲ辨識シ難シ夫禽獸モ
身ヲ護ルノ爪牙アリ況ヤ人ニ於テ護身刀ヲ廢

ス可シヤ古代ノ風ハ一刀ヲ佩ヒ太刀ハ僕從ニ
持セシト云ヘリ今長短ノ二刀ヲ帶スルハ後世
戰國ノ遺風ト聞ク古風ニ歸サンモ又可ナランカ

中澤見作

佩刀ハ身ニ著スルノ要具之ヲ廢セハ 皇國ノ
俗ヲ敗リ文弱ノ風トナラン且俄ニ從來ノ風俗
ヲ變セバ外國人モ其輕躁ヲ笑ハン故ニ古風ノ
如ク一刀ヲ帶スルニ改メバ可ナラン然レドモ
止ヲ得ズシテ廢スルハ格別ナレドモ第一條ノ

文意ニテハ止ヲ得ザルノ勢ニモ非ザルニ似タ
リ然則是好事ノ議ニテ妥當ナラス

秋元與助

右謹テ古徴ヲ原ヌルニ兵備ノ大小ヲ脱スル
ハ尤可然コトナリ舊來佩刀ノ式ヲ受來ル者ハ
一ロヲハ常ニ佩ヘシ飾ルニ異好ヲ禁シ古來ヨ
リノ形ヲ用ヒ外國製ニ紛ハシキヲ無ルベシ劍ハ
護身ノ要用ナレバ一刀ハ必佩ベシ

入江事

天ノ物ヲ賦スル必ス與ルニ患ヲ防グノ具ヲ以
テス牛角虎牙ノ如キ是也人ニ至テハ此具ナシ
故ニ知ヲ授ケテ刀具ヲ製セシメ防禦ノ具トナ
ス焉ゾ之ヲ廢センヤ

三宅鑛太郎

帶刀ヲ廢スルノ說卓見トモ云ベシ然レトモ唯
ニ此條ヲ以テ皇道ヲ裨補スルトナラハ抑末
ナラン皇運隆興苟モ暴戾ノ事ナキニ至ラバ
何ゾ腰刀ノ有無ヲ論セン

明治二年己巳六月

公議所日誌 第十八上

定價二枚

公議所日誌第十八上

六月二日會議ニ付例刻ヨリ上院議長大原中納言議長大原少將副議長長心得神田孝平議貞二百十三人參聽ノ諸侯田安中納言久留島伊豫守内藤備後守池田但馬守青木民部少輔板倉攝津守三浦玄蕃頭龍腸丹後守織田大和守其外諸藩參聽人例席へ出仕議貞例刻ヨリ第十二號并第十大號議案可否ヲ決定シ後第十五號議案評論ヲ

讀上ケテ今日配分ノ議案ヲ請取リ一同退散ス

第十二號官吏兵隊ノ外帶刀ヲ發スルハ随意タルノ議

右皆否ノ事

第十六號大名領分飛地無之様仕度議

上總國武射郡 真行寺和泉

諸大名領分其身上ニ寄或ハ一國一圓或ハ一郡一圓或ハ一郷一圓下シ賜候様仕度奉存候旧幕府徳川源家康公ヨリ三四代ノ間ハ一國一郡一郷等ヲ一圓ニ宛行申候處近來此所ニ一村彼所

ニ二村所々飛地ニ宛行候ニ就テハ自然領分ノ取締モ不行届地方掛リ役人往来ノ費種々ノ弊害ヲ生シ申候且又各藩寛仁苛酷不同ニ御座候得ハ廉直人撰諸國ニ監察使ヲ以可否曲直御糺明賞罰嚴重御沙汰被仰出候様奉存候

右可否決定ノ藩々
右議案ハ評論ニ及バズ直ニ可否ヲ決スル者ナリ
可トスル者百九十二人

岡田	三草
喜連川	伊勢崎
薦野	宮川
高遠	麻田
津和野	西太路
宇和島	小見川

苗木	阿州	岩村	福江	生實	人吉	出石
長島	飫肥	小泉	栢原	館山	花房	矢島
櫛良	麻生	中津	淺尾	庄内	久居	小諸
土浦	私前	駿州	柳河	福本	水口	笠間
一宮	新發田	下妻	國部	小田原	大田喜	
館林	糸魚川	堀江	小城	岸和田	宇都宮	
山中	多度津	三上	山崎	大聖寺	三門市	
新谷	湯長谷	龍岡	鯖江	久留里	三根山	
廣瀬	大田原	上田	大野	久留米	西大平	

田原	龜田	臼杵	丸龜	松代	高鍋	平戸
佐野	杵筑	持木	安志	安中	芝村	與板
西端	郡上	彦根	伯太	宇土	鶴舞	三根山
三池	鹿嶋	小松	綾部	日出	大洲	飯山
常州府中	三州吉田	高知新田	膳所	高崎		
越前勝山	作州勝山	昌平學校	志筑	田安		
備後福山	熊本新田	房州勝山	馬山	舉母		
豫州吉田	羽後松山	勢州龜山	峰山	中村		
平戸新田	岡山新田	廣嶋新田	吹上	上山		

丹州	小野	濱田	蓮池	加納	柳本	延岡	飯野	三田
龜山	紀州	肥後	高田	佐伯	新見	佐倉	吉井	尾州
小倉	丹南	林田	小濱	足守	前橋	唐津	高島	鶴牧
新田	高松	薩州	山家	成羽	島原	松本	古河	黒羽
豫州	龍野	柳生	高取	九岡	藝州	完戸	新宮	高富
松山	鴨方	須坂	尼崎	守山	母里	長尾	飯田	推谷
椿岱	狹山	一槁	越前	笹山	山上	水戸	西尾	秋月
舘山								

淀 駿州 戸田大和守 森 泉 田沼玄蕃頭
佐土原 米澤

否トスル者二十四人

雲州 富山 川越 結城 高槻 荻屋 下館
半原 三春 黒川 大垣 足利 敦賀 今治
八戸 新庄 庭瀬 壬生 福知山 大垣新田
七日市 津 三日月 紀州田邊
可否半スル者十三人

岡崎 大溝 長靜 村岡 鳥羽 柴山 牛久

公議所日誌十八上

日

櫻井 岩槻 宮津 沼田 豊岡 田原本

依テ可ト決シ候事

第十五號赦令御廢止可然議

制度寮准撰脩 神田孝平

竊ニ案ズルニ 朝廷ニ吉凶ノ大禮アル毎ニ赦
令ヲ行ヒ罪人ヲ放ツコトハ和漢古今ノ常典ナリ
然レモ其理ハ頗ル不經ニ属スル者アリ夫レ人
君ノ人ヲ刑スルハ好デ之ヲ爲スニ非ズ寧ロ一
人ヲ罰シテ數人ヲ救ハントノ趣意ナレバ其形

ハ不仁ニ似タレモ其實ハ至仁ヲ行フナリ之ニ
及シテ赦令ヲ行フハ一人ヲ赦サンカ爲ニ寧
ロ數人ヲ陷レントノ趣意ニ當リテ其形ハ至仁
ニ似タレモ其實ハ不仁ノ甚シキナリ且夫罪輕
クシテ赦スベキ者ナレバ 朝廷ニ大禮ナシト
雖モ之ヲ赦スバシ又罪重クシテ赦スベカラザ
ル者ナレバ 朝廷ニ大禮アリト雖モ赦スベカ
ラズ赦スモ赦サルモ 朝廷ノ大禮ニ關係ス
ヘキコトニ非ズ況ヤ刑律ハ永世ノ法ナリ赦令ハ

一時ノ事ナリ一時ノ事ヲ以テ永世ノ法ヲ破ル
可ナランヤ此數ノ者皆義ニ戻リ理ニ反ス故ニ
云頗ル不經ニ屬スル者アリト方今文明日進ノ
際此等ノ事モ亦御改正アルヤキニ似タリ如何
右評論抄出

関小四郎

吉凶ノ大禮アル毎ニ赦令ヲ行フハ廢止スベシ
然レドモ古人ノ語ニ赦ハ權時ノ宜トアレハ非
常ノ赦ハ亦無カルベカラズ

大略同論ノ者

服部清三郎 石井正敏 磯部寛郎

中里行藏

此議可ナリト雖モ其行ハル、ヤ久シ未ダ政ニ
害アルヲ聞カズ尤罪ノ次第ニ依必ズ赦スベカ
ラザルモノハ此例ニアラス何ハ琴柱ニ膠スベ
キヤ萬機時宜ニ随テ之ヲ施テ可ナラン但シ常
典ノ赦令ハ廢スベシ

公議所日誌十八上

田中哲輔

赦令ハ不經ノ如シト雖モ古今得失一ナラズ悉
ク不經ヲ以テ概シ難シ舊幕府赦令ノ制ノ如重
辟死囚ハ之ヲ算セズ其赦ス所輕囚ニ過ギズ且
追放流罪ノ徒ハ豫メ大禮ノ有無ヲ算シテ其年
期ヲ程課シ漸次赦名ヲ以テ之ヲ放還ス其名ハ
非ナリト雖モ其實ハ非ニアラズ 聖朝ノ刑典
ニ於ル幕府ノ舊貫ニ據ラントナラバ赦令ヲ廢
スルノ令下シガタシ或ハ其名ノ非ナルヲ惡シ
テ之ヲ廢セントナラバ新ニ刑政ヲ改正シ成典

ヲ確立スルノ後ニアラザレバ不可也

太田省吾

刑嚴ナラザレバ民畏レズ赦令常典トナスハ大
ニ不可ナリ然レモ天下冤罪ナシト云ベカラス
故ニ非常ニ之ヲ施スモ亦仁道ナランカ

福井大助

大略同論

恒岡完次郎

人君ノ國家ヲ治ル徳ヲ以テ本トス然レドモ徳

教厚カラザルヨリ一時赦ス可ラザルノ罪アリ
テ不得已刑ヲ用ルニ至ル故ニ吉凶ノ大禮ニハ
其哀樂ノ情ヲ擴充シ衆庶ト休戚ヲ俱ニセント
シテ赦令ヲ行フナリ之レ已ムヲ得ザルヨリ刑
ヲ用ユルノ情ヲ以テ大禮ノ事實ニ依テ行フ所
ナレバ其罪ノ輕重ニヨリ其節用ヲ失ハザレバ
此令廢セズシテ可ナランカ

大略同論

横手五左門

白石奎右衛門

吉凶ノ大禮有ニ付大赦ヲ行ヒ罪ノ至當ヲ論ゼ
ザルハ仁ニ似タリト雖モ却テ姑息ノ仁ニ近シ
制シテ可ナラン

大略同論ノ者

松崎元右門 木下三平 岡本治衛 岡田 孝
衆原政右門

帆足龍吉

赦令ヲ論ジテ不經トス固ニ當レリ斷然廢止シ
別ニ賜酺免役等ノ惠典ヲ行フベシ罪人ト雖モ

此日ニ於テ酒肉ヲ賜ヒ幽囚ノ鬱ヲ散ゼンメバ
以テ惠恩ニ浴セシムルニ足ラン

秋元與助

刑法已ニ決スルハ常刑不赦ノ典ニ從ヒ親戚族
人ヨリ幽閉放流等ノ者ノ為メニ哀ヲ乞ニ於テ
ハ大赦ノ例ニ從ヒテハ惠刑并ビ行ハレ及正ノ
御一新タルベキカ

刑ノ重キハ輕キニツクト云ヘリ依之矢張
下津權内

朝廷ニ吉凶ノ大禮アル毎ニ赦令ヲ行フ古今ノ
常典可然奉存候

同論

佐藤八右衛門

池田勲一郎

右至當辯論ヲ待ズト雖ヒ兵革ノ餘濫刑ニヨリ
不教ノ民法禁ヲ犯シ或ハ冤枉ニ陷ルヲ恐レ吉
凶ニ托シ赦令ヲ行ヒ民ノ悔悟ヲ望ム仁者生物
ノ意止ヲ得ガル所ナリ本朝律令六議ノ法并ヒ

行レ其當ヲ得テ此廢議始テ發スベキニ似タリ

早川與一郎

大畧同論

志賀律三郎

赦令ハ末俗ノ弊聖人ノ世コレアルヲ不聞辜
ヲ犯ス者ハ幸ニ大禮ニ逢トモ此ニ赦サレ彼ニ
犯ス者往々不少豈赦ヲ以テ戲トスルニチカハ
ラズヤ故ニ赦令廢止ヲ至當トス

熊谷貞藏

吉凶大禮アルキ赦令ヲ行フヲ常典トナストキ
ハ博徒杯預メ頼ンテ惡ヲ為ス者アリ亦情状ニ
依テ行フヘキアリ故ニ廢シ置テ時ニ臨ミ適宜
ニ行フヘシ

坂口音度

刑ハ情實ニ隨テ輕重スベシ必ス律ニ拘泥スベ
カラズ然トモ律モ亦破ルベカラス情實ニ隨テ
輕重ヲナス者ハ即チ律ヲ活用スル者ニテ一時
ノ宜ニ叶フ是ヲ法外ノ法ニ謂フベシ蓋赦モ亦

公議所日誌十八上

ト

時宜ニ叶フノ義ニ出ツ後世ノ流弊ハ改ムベシ
赦ノ令ハ廢スベカラズ

坂田 芳

暴亂ノ餘ヲ受タルトキハ大赦モ一時民心ヲ安
ンズル一ツノ權宜ナレトモ向後政令一途ノ御代
ナレバ斷然行ハズシテ足りナシ然トモ本文所
謂永世ノ法トナル程ノ刑律未確定故ニ罪ノ輕
重其當否如何ヲ知ラス請フ此議ノ如キモ取加
ヘ速ニ一定ノ刑律ヲ編集アリテ幸ニ罪ヲ免ル

者ト不幸ニシテ冤罪ニ陷ル者トナカラシメン
但シ大慶事アリ常人以上賚賜等行ル時ハ
右ニ准ジ罪モ一等カ二等ハ宥ムル條目ハ
旧法アルニ似タリ更ニ考ヘテ定例立タキ
事

園田 保

此議允當ナリ但刑罰ノ後ログラキハ古今ノ通
弊ナレバ寧ロ輕キニ失スモ重ニ失スル勿レ以
來青災ハ大ナリトモ赦スベシ怙終ハ小ナリト

モ不可赦ノ令ヲ設ケ務メテ以法揣情酌情行法
如此セバ天下冤民ナカラン

毛受 洪

赦ハ小人ノ幸ニシテ君子ノ不幸ナレバ兵亂又
飢饉ノ後等ニテ一々法禁ノ届キガタキ時止
ヲ不得シテ之ヲ行フハ格別其餘議案ノ如ク廢
止可然カ

大畧同論

岡田又吉太郎

永野壽郎兵衛

赦令ハ一時愷惻ノ事ニシテ常トナスベカラス
故ニ罪ノ輕重ヲ洞察シ赦ト不赦トハ必ス常典
ニ拘ラザル一議案ノ如ク然ルベシ

新宮左太夫

赦令ヲ常典ト為ス固ヨリ不可一切赦令ヲ廢ス
ルモ不可之ヲ要スルニ上ノ人時宜ヲ計リ人情
ヲ察シ非常ノ明斷ヲ以テ一時ノ仁道ヲ行フベ
シ

京僧彦助

赦ハ小惠ニシテ至大ノ仁恤ニアラズ御改正可
然願クハ文明ノ化ヲ被ルノ際重罪ノ外死刑ヲ省
キ蝦夷地ノ開拓礦山其外荒蕪ノ地ニ充シメ教
化ヲ施シ悔悟セシムベキ御處置コレ有度候

渡邊清玄門

赦ヲ行フハ非ナリ佛教ニ近シ赦スベキ罪ハ大
禮ニ不拘赦スベシ

赤見為左門

至當ナリ然レトモ其罪ノ赦スベキハ其情實ニ

原キ或ハ其罪ノ一等ヲ宥メ時トシテハ赦宥ヲ
行ハ可ナリ

平井東馬

赦令ハ往古ヨリノ典禮ナレバ不得已ノ障礙
ナケレハ廢止セザルモ害ヲカルベシ然レ氏固
ヨリ小惠ニ拘ツテ大仁ニ戾ルノ理廢止スルモ
亦可ナリ

加藤鍊之助

大禮ニヨリテ罪ヲ赦サンヨリ寧ロ平世淹滯ナ

ク且冤罪ナカラシムルヲ祈ル

伴權大夫

此議然ル可ラズ且凶禮ヲ以テ赦ラ行フ臣未
知之抑

天皇即位 皇子降誕等ノ大禮ハ實ニ天下維新
ノ慶儀一夫モ其處ヲ得ザルニ忍ビス罪人ヲ赦
テ天下ト共ニ更始ス人主ノ至情可有ノ理ニシ
テ不經ト云ベカラズ且情實可原シテ法律不可
借者アリ此等ハ一旦赦ニ遇ハ皆化シテ良民ト

ナル者ナリ其他逆罪即罰ノ者ハ大禮アリト雖
モ赦令ノ例ニ非レバ必シモ今之ヲ廢シ自新ノ
道ヲ斷ツニ不及儀ト奉存候

堀内謹衛門

治世以大德不以小惠三宥三赦ハ古聖王ノ常典
ナリコレヲ外ニシ大貴ヲ赦サズノ可ナリ魯國
肆大青春秋非之可不慎哉

此外猶評論アリ次卷ニ出ス

官版御用

御彫刻所

神田旅籠町二丁目

竹口瀧三郎

本町四丁目

御書物所

上州屋惣七